
熊谷市

下田町遺跡Ⅳ

大里地区高規格堤防整備事業関係

埋蔵文化財発掘調査報告

—Ⅳ—

(第1分冊)

2006

国土交通省 関東地方整備局

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



下田町遺跡第2～5次調査区全景（合成）



第4次調査東区全景



第5次調査北端全景



第5次調査北半全景



第5次調査南半全景

口絵 4



第11号方形周溝墓



第11号方形周溝墓出土土器



第12号方形周溝墓マウンド全景



第12号方形周溝墓マウンド土層断面



第12号方形周溝墓出土土器



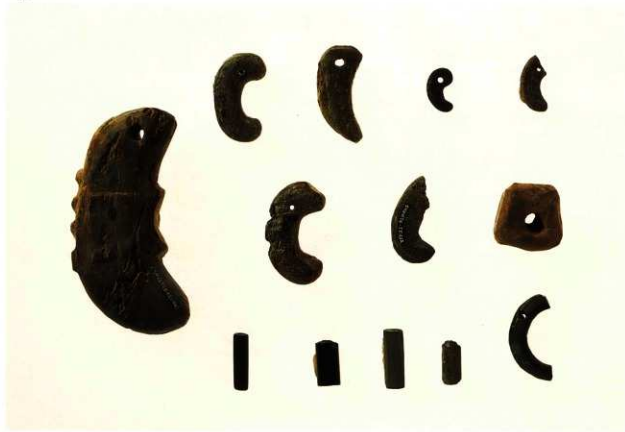
第17号方形周溝墓出土土器



第17号方形周溝墓出土壺形土器 (第38図2)



第18号方形周溝墓遺物出土状況



玉類一括（子持勾玉・勾玉・管玉ほか）



第792号清跡出土土器

序

国土交通省は、国民が安全に、安心して暮らせる国土の整備と保全に努めています。その一環として、豊かな自然環境と安心して暮らせる“ゆとり、いこい、あそび”のある地域の創出をめざし、新しいまちづくり事業としてスーパー堤防の整備を行なっています。現在、建設が進められている熊谷市大里地区の高規格堤防整備事業は、公園整備や汚泥再生処理センターの建設と一体的に行うまちづくり事業であります。

このたびの、整備事業にあたり、予定地が下田町遺跡の範囲内にあることから、その取扱いについて、関係諸機関が慎重に協議を重ねてまいりました。その結果、やむを得ず記録保存の処置を講ずることとなり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）の調整により、当事業団が国土交通省の委託を受けて発掘調査を実施いたしました。

発掘調査の結果、古墳時代前期から、奈良時代、平安時代、そして鎌倉・室町時代に至るまで、多くの遺構と遺物を検出することができました。また、古墳時代前期に造られた大型の方形周溝墓は、中央部に盛り土された墳丘部分が残されていました。このほか、古墳時代の祭祀に使われた石製模造品や玉類および滑石製紡錘車の未製品が出土することから、この地に玉造りや石工技術をもつ人が住んでいたことがわかります。

本書は、これらの成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護や学術研究の基礎資料として、また、普及・啓発および各教育機関の参考資料として広く活用していただければ幸いです。

本報告書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局生涯学習部生涯学習文化財課及び旧大里町教育委員会、熊谷市教育委員会をはじめ、発掘調査から報告書刊行に至るまで御協力いただきました国土交通省関東地方整備局並びに地元関係者各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成18年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 福田 陽 充

例 言

1. 本書は、埼玉県大里郡大里町（現熊谷市）津田に所在する下田町遺跡（第4次調査東区・第5次調査）の発掘調査報告書である。以下、調査にかかわる記載は、第5次調査分であり、第4次調査分については、埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第319集の下田町遺跡Ⅲを参照されたい。

下田町遺跡では、これまでに以下の報告書を当事業団から刊行している。

下田町遺跡Ⅰ 事業団報告書第296集 2004

下田町遺跡Ⅱ 事業団報告書第301集 2005

2. 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

下田町遺跡第5次（SMDMT 4）

埼玉県大里郡大里町（現熊谷市）津田1828-1
番地他

平成16年5月10日付け 教文第2-15号

3. 発掘調査は、大里地区高規格堤防整備事業に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）が調整し、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

4. 発掘調査事業は、I-3の組織により実施した。発掘調査は、平成16年4月8日から平成17年3月24日まで実施し、昼間孝志、木戸春夫、瀧瀬芳之、中山浩彦、松本美佐子が担当し、的野善行、山北美穂の協力を得た。

整理・報告書作成事業は、平成17年7月1日から平成18年3月24日まで実施し、磯崎 一、赤熊浩一、瀧瀬芳之、中山浩彦が担当し、兵ゆり子、大和田暲の協力を得た。

5. 遺跡の基準点測量は、㈱シン技術コンサルに委託した。空中写真撮影および合成写真は、中央航業株式会社に委託した。現場における花粉分析、珪藻分析、炭化材樹種同定、赤色顔料分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に、漆製品の保存処理は株式会社京都科学に委託した。整理における木製品の樹種同定と獣骨の同定は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

6. 発掘調査時の写真撮影は発掘担当者が、遺物の写真撮影は大屋道則および整理担当者が行った。

7. 出土品の整理・図版作成は、磯崎、赤熊、瀧瀬、中山が行い、兵、大和田の協力を得た。

8. 本書の執筆は、I-1を埼玉県教育局生涯学習部生涯学習文化財課、II-IV-8を赤熊、V-4を瀧瀬、V-3、木製品の記載、付編の表作成を大和田が、その他を中山が行った。

9. 本書の編集は、中山が行った。

10. 本書に掲載した資料は、平成18年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターで管理・保管する。

11. 発掘調査から報告書の刊行までに、下記の方々・機関から御教示、御協力を賜った。記して感謝の意を表します（敬称略）

浅野晴樹	池田敏宏	出縄康行	岩原 剛
大澤伸啓	太田賢一	大谷晃二	大谷宏治
篠原祐一	白木原宜	相馬和徳	田中 信
西本安秀	北條芳隆	松岡有希子	水澤幸一
水口由紀子	熊谷市教育委員会		

凡例

1. 本書中におけるX・Yの数値は、日本測地系(旧測地系)による平面直角座標第IX系(原点:北緯36° 00' 00", 東経139° 50' 00")に基づく座標値(m)を示す。また、各挿図における方位はすべて座標北を示している。
2. 遺跡におけるグリッドの設定は、前記座標系に基づいて設置した、10m×10m方眼を基本グリッドとしている。
3. グリッドの名称は、北西杭を基準として、東西方向は西から東へA、B、C…とアルファベットを付し、南北方向は北から南へ1、2、3…と算用数字を付した。(例 H-34グリッド)
4. 本書における本文・挿図・表に示す遺構の略号は以下のとおりである。

S R 方形周溝墓	S J 竪穴住居跡
S B 掘立柱建物跡	S E 井戸跡
S X 性格不明遺構	S K 土坑
S D 溝跡	P・GP ビット

5. 本書における挿図の縮尺は原則として以下のとおりである。

遺構図

方形周溝墓	1:80
竪穴住居跡・掘立柱建物跡	1:60
井戸跡・土坑・ビット	1:60
溝跡断面	1:60

遺物実測図

木製品(大型)	1:8、1:6
土器・木製品・砥石	1:4
縄文・土師器拓影図	1:3
土錘・紡錘車・打製石斧	1:3
石製模造品・玉類・金属製品	1:2
白玉・銭貨	1:1

その他、遺物出土状況詳細図、遺跡位置図、周辺地形図、全体図等は個別に縮尺率を設定した。

6. 遺構断面図等に表記した水準数値は、海拔標高

を示す。

7. 遺構図中、焼土・被熱範囲は黒40%網かけ、炭・灰分布範囲は黒20%網かけ、噴砂はスクリーントーン71/50で示した。
8. 遺物のうち、須恵器は断面を黒塗りにした。また、緑釉・灰釉陶器、彩色土器については、施釉・彩色範囲を網かけで示した。
網は、緑釉20%・断面40%、灰釉10%・断面40%、赤彩・赤漆10%、黒色土器・黒漆30%である。
9. 木器の木取りについては、断面図に年輪方向を模式的に図示した。ただし、年輪の横断面が断面図にあらわれない場合や、木取りを確認していない木器の断面図は白ぬきである。
10. 遺物観察表については次のとおりである。

- ・口径・器高・底径はcm、重さはgを単位とする。
- ・()内の数値は復元推定値、[]内の数値は残存値である。
- ・胎土は肉眼で観察できるものについて次のように略号で示した。

雲	雲母	片	片岩	角	角閃石
長石	長石	石英	石英	軽石	軽石
砂粒	砂粒子	赤粒	赤色粒子		
白粒	白色粒子	黒粒	黒色粒子		
針	白色針状物質				

- ・焼成は、良好・普通・不良の3段階に分けた。
 - ・残存率は、破片の場合には、図示した器形の部分に対する割合を示したものもある。
11. 本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図、大里町都市計画図1/5,000を使用した。
 12. 土層および土器類の色調の表記は、「新版標準土色帖」2002年度版(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修)に従った。

目次

(第1分冊)

口絵

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1
1. 発掘調査に至る経過	1
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	4
II 遺跡の立地と環境	5
III 遺跡の概要	11
IV 遺構と遺物	22
1. 方形周溝墓	22
2. 竪穴住居跡	56
3. 掘立柱建物跡	208
4. 井戸跡	214
5. 性格不明遺構	238
6. 土坑	248
7. ビット	281

(第2分冊)

8. 溝跡	317
9. 道路状遺構	413
10. 谷部	414
11. グリッド・表採遺物	462
V まとめ	473
1. 遺構の変遷	473
2. 下田町遺跡の方形周溝墓について	477
3. 下田町遺跡の木材利用	479
4. 第2～5次調査のまとめ	484
VI 下田町遺跡の自然科学分析	487
1. 下田町遺跡の自然科学分析(遺構編)	488
2. 下田町遺跡の自然科学分析(遺物編)	497
付編(下田町遺跡検出遺構全索引)	512
写真図版	
付図	

挿図目次

(第1分冊)

第1図	下田町遺跡調査区分図	3	第35図	第16号方形周溝墓出土遺物	44
第2図	埼玉県の地形	5	第36図	第17号方形周溝墓(1)	46
第3図	下田町遺跡の周辺地形	6	第37図	第17号方形周溝墓(2)	47
第4図	周辺の遺跡	8	第38図	第17号方形周溝墓出土遺物	48
第5図	遺跡周辺の地形図	13	第39図	第18号方形周溝墓(1)	50
第6図	発掘調査区グリッド配置図	14	第40図	第18号方形周溝墓(2)	51
第7図	調査区全体図(1)	15	第41図	第18号方形周溝墓出土遺物	52
第8図	調査区全体図(2)	16	第42図	第19号方形周溝墓	53
第9図	調査区全体図(3)	17	第43図	住居跡全体図(1)	56
第10図	調査区全体図(4)	18	第44図	住居跡全体図(2)	57
第11図	調査区全体図(5)	19	第45図	第324号住居跡	59
第12図	調査区全体図(6)	20	第46図	第324号住居跡出土遺物	60
第13図	調査区全体図(7)	21	第47図	第325号住居跡(1)	61
第14図	方形周溝墓全体図	22	第48図	第325号住居跡(2)	62
第15図	第11号方形周溝墓(1)	24	第49図	第325号住居跡出土遺物	63
第16図	第11号方形周溝墓(2)	25	第50図	第326号住居跡	64
第17図	第11号方形周溝墓遺物出土状況	26	第51図	第326号住居跡出土遺物	65
第18図	第11号方形周溝墓出土遺物	27	第52図	第327号住居跡	65
第19図	第12号方形周溝墓(1)	29	第53図	第328号住居跡・出土遺物	66
第20図	第12号方形周溝墓(2)	30	第54図	第330号住居跡	66
第21図	第12号方形周溝墓(3)	31	第55図	第330号住居跡出土遺物	67
第22図	第12号方形周溝墓(4)	32	第56図	第331号住居跡・出土遺物	68
第23図	第12号方形周溝墓(5)	33	第57図	第332号住居跡・出土遺物	69
第24図	第12号方形周溝墓区割図	34	第58図	第333号住居跡(1)	70
第25図	第12号方形周溝墓マウンド出土遺物	34	第59図	第333号住居跡(2)	71
第26図	第12号方形周溝墓遺物出土状況(1)	35	第60図	第333号住居跡遺物出土状況	72
第27図	第12号方形周溝墓遺物出土状況(2)	36	第61図	第333号住居跡出土遺物	73
第28図	第12号方形周溝墓出土遺物(1)	37	第62図	第334号住居跡出土遺物	73
第29図	第12号方形周溝墓出土遺物(2)	38	第63図	第334・335号住居跡	74
第30図	第14号方形周溝墓	39	第64図	第336・337号住居跡	75
第31図	第15号方形周溝墓出土遺物	40	第65図	第336号住居跡出土遺物	76
第32図	第15号方形周溝墓	41	第66図	第338号住居跡	76
第33図	第16号方形周溝墓(1)	42	第67図	第338号住居跡出土遺物	76
第34図	第16号方形周溝墓(2)	43	第68図	第339号住居跡・出土遺物	77
			第69図	第340号住居跡(1)	78

第70图	第340号住居跡(2)	79	第107图	第361号住居跡	108
第71图	第340号住居跡出土遺物	80	第108图	第362·370号住居跡(1)	108
第72图	第341号住居跡	81	第109图	第362·370号住居跡(2)	109
第73图	第342号住居跡出土遺物	81	第110图	第362号住居跡出土遺物	110
第74图	第342号住居跡	82	第111图	第363号住居跡	111
第75图	第343号住居跡	83	第112图	第363号住居跡遺物出土狀況	112
第76图	第343号住居跡出土遺物	84	第113图	第363号住居跡出土遺物(1)	113
第77图	第344号住居跡(1)	84	第114图	第363号住居跡出土遺物(2)	114
第78图	第344号住居跡(2)	85	第115图	第364号住居跡(1)	115
第79图	第344号住居跡出土遺物	86	第116图	第364号住居跡(2)	116
第80图	第345号住居跡	87	第117图	第364号住居跡(3)	117
第81图	第345号住居跡出土遺物	88	第118图	第364号住居跡出土遺物	118
第82图	第346号住居跡	89	第119图	第365·391号住居跡(1)	119
第83图	第346号住居跡出土遺物	90	第120图	第365·391号住居跡(2)	120
第84图	第347号住居跡	91	第121图	第365号住居跡出土遺物(1)	120
第85图	第347号住居跡出土遺物	92	第122图	第365号住居跡出土遺物(2)	121
第86图	第348号住居跡(1)	93	第123图	第366号住居跡(1)	122
第87图	第348号住居跡(2)	94	第124图	第366号住居跡(2)	123
第88图	第348号住居跡出土遺物	94	第125图	第366号住居跡出土遺物	123
第89图	第349·350号住居跡	95	第126图	第367号住居跡(1)	124
第90图	第350号住居跡出土遺物	96	第127图	第367号住居跡(2)	125
第91图	第351号住居跡	97	第128图	第367号住居跡出土遺物	126
第92图	第351号住居跡出土遺物	98	第129图	第368号住居跡	127
第93图	第352号住居跡	98	第130图	第368号住居跡出土遺物	128
第94图	第353号住居跡	99	第131图	第369号住居跡	128
第95图	第353号住居跡出土遺物	100	第132图	第370号住居跡出土遺物	129
第96图	第355号住居跡	100	第133图	第371号住居跡	130
第97图	第356号住居跡	101	第134图	第371号住居跡出土遺物	130
第98图	第357号住居跡	102	第135图	第372号住居跡	131
第99图	第357号住居跡出土遺物	103	第136图	第372号住居跡出土遺物	131
第100图	第358号住居跡	104	第137图	第373号住居跡	132
第101图	第358号住居跡出土遺物	105	第138图	第373号住居跡出土遺物	132
第102图	第359号住居跡	105	第139图	第374·379号住居跡	133
第103图	第359号住居跡出土遺物	105	第140图	第375号住居跡	134
第104图	第360号住居跡	106	第141图	第375号住居跡出土遺物	135
第105图	第360号住居跡出土遺物	107	第142图	第376号住居跡(1)	136
第106图	第361号住居跡出土遺物	107	第143图	第376号住居跡(2)	137

第144图	第376号住居跡 (3)	138	第181图	第397·422号住居跡	164
第145图	第376号住居跡遺物出土状況	139	第182图	第397号住居跡出土遺物	165
第146图	第376号住居跡出土遺物 (1)	140	第183图	第398号住居跡	165
第147图	第376号住居跡出土遺物 (2)	141	第184图	第398号住居跡出土遺物	166
第148图	第377号住居跡 (1)	142	第185图	第399号住居跡	166
第149图	第377号住居跡 (2)	143	第186图	第399号住居跡出土遺物	167
第150图	第377号住居跡出土遺物	143	第187图	第400号住居跡 (1)	168
第151图	第378·385号住居跡	144	第188图	第400号住居跡 (2)	169
第152图	第380号住居跡	145	第189图	第400号住居跡 (3)	170
第153图	第380号住居跡出土遺物	146	第190图	第400号住居跡出土遺物	171
第154图	第381号住居跡	147	第191图	第401号住居跡	172
第155图	第381号住居跡出土遺物	148	第192图	第402号住居跡	173
第156图	第382号住居跡	149	第193图	第402号住居跡出土遺物	174
第157图	第382号住居跡出土遺物	149	第194图	第403号住居跡	174
第158图	第383·387号住居跡	150	第195图	第403号住居跡出土遺物	174
第159图	第383号住居跡出土遺物	150	第196图	第404号住居跡	175
第160图	第384号住居跡	151	第197图	第404号住居跡出土遺物	176
第161图	第384号住居跡出土遺物	152	第198图	第405号住居跡出土遺物	177
第162图	第385号住居跡出土遺物	152	第199图	第405号住居跡 (1)	178
第163图	第386号住居跡·出土遺物	153	第200图	第405号住居跡 (2)	179
第164图	第388号住居跡出土遺物	153	第201图	第406号住居跡 (1)	180
第165图	第388号住居跡	154	第202图	第406号住居跡 (2)	181
第166图	第389号住居跡 (1)	155	第203图	第406号住居跡出土遺物 (1)	182
第167图	第389号住居跡 (2)	156	第204图	第406号住居跡出土遺物 (2)	183
第168图	第389号住居跡出土遺物	156	第205图	第407·408号住居跡	184
第169图	第390号住居跡	157	第206图	第407号住居跡出土遺物	185
第170图	第390号住居跡出土遺物	157	第207图	第409·410号住居跡	186
第171图	第391号住居跡出土遺物	157	第208图	第411号住居跡	187
第172图	第392号住居跡	158	第209图	第411号住居跡出土遺物	187
第173图	第392号住居跡出土遺物	158	第210图	第412·413号住居跡	188
第174图	第393号住居跡	159	第211图	第412号住居跡出土遺物	189
第175图	第393号住居跡出土遺物	159	第212图	第413号住居跡出土遺物	189
第176图	第394号住居跡	160	第213图	第414·415号住居跡 (1)	190
第177图	第394号住居跡出土遺物	160	第214图	第414·415号住居跡 (2)	191
第178图	第395·396号住居跡	161	第215图	第414号住居跡出土遺物	191
第179图	第395号住居跡出土遺物	162	第216图	第415号住居跡出土遺物	192
第180图	第396号住居跡出土遺物	163	第217图	第416号住居跡出土遺物	192

第218図	第416・417・421号住居跡	193
第219図	第417号住居跡出土遺物	193
第220図	第418号住居跡	194
第221図	第418号住居跡出土遺物	194
第222図	第419号住居跡出土遺物	194
第223図	第419号住居跡	195
第224図	第420号住居跡	195
第225図	第420号住居跡出土遺物	196
第226図	第422号住居跡出土遺物	196
第227図	第423号住居跡	197
第228図	第423号住居跡出土遺物	197
第229図	掘立柱建物跡・井戸跡全体図(1)	208
第230図	掘立柱建物跡・井戸跡全体図(2)	209
第231図	第52号掘立柱建物跡	210
第232図	第53号掘立柱建物跡	211
第233図	第53号掘立柱建物跡出土遺物	212
第234図	第54号掘立柱建物跡	213
第235図	井戸跡(1)	215
第236図	井戸跡出土遺物(1)	216
第237図	井戸跡(2)	217
第238図	第396号井戸跡遺物出土状況	218
第239図	井戸跡出土遺物(2)	219
第240図	第397号井戸跡遺物出土状況	220
第241図	井戸跡出土遺物(3)	221
第242図	井戸跡(3)	223
第243図	井戸跡出土遺物(4)	224
第244図	井戸跡(4)	225
第245図	井戸跡出土遺物(5)	227
第246図	井戸跡(5)	228
第247図	井戸跡出土遺物(6)	229
第248図	井戸跡(6)	230
第249図	井戸跡出土遺物(7)	232
第250図	井戸跡出土遺物(8)	233
第251図	井戸跡出土遺物(9)	234
第252図	井戸跡(7)	235
第253図	性格不明遺構・土坑全体図(1)	238
第254図	性格不明遺構・土坑全体図(2)	239

第255図	第7号円形周溝状遺構	240
第256図	第7号円形周溝状遺構出土遺物	240
第257図	第8号竪穴状不明遺構	241
第258図	第8号竪穴状不明遺構遺物出土状況	242
第259図	第8号竪穴状不明遺構出土遺物(1)	243
第260図	第8号竪穴状不明遺構出土遺物(2)	244
第261図	第8号竪穴状不明遺構出土遺物(3)	245
第262図	第9号竪穴状不明遺構出土遺物	245
第263図	第9号竪穴状不明遺構	246
第264図	第10号焼土跡	246
第265図	土坑(1)	249
第266図	土坑(2)	251
第267図	土坑(3)	253
第268図	土坑(4)	254
第269図	土坑(5)	255
第270図	土坑(6)	259
第271図	土坑(7)	261
第272図	土坑(8)	263
第273図	土坑(9)	265
第274図	土坑(10)	267
第275図	土坑(11)	269
第276図	土坑(12)	271
第277図	土坑(13)	273
第278図	土坑(14)	275
第279図	土坑(15)	277
第280図	土坑出土遺物(1)	278
第281図	土坑出土遺物(2)	279
第282図	ピット全体図(1)	281
第283図	ピット全体図(2)	282
第284図	ピット全体図(3)	283
第285図	ピット全体図(4)	284
第286図	ピット全体図(5)	285
第287図	ピット全体図(6)	286
第288図	ピット全体図(7)	287
第289図	ピット(1)	288
第290図	ピット(2)	289
第291図	ピット(3)	290

第292図	ピット (4)	291
第293図	ピット (5)	292
第294図	ピット (6)	293
第295図	ピット (7)	294
第296図	ピット (8)	295
第297図	ピット (9)	296
第298図	ピット (10)	297
第299図	ピット (11)	298
第300図	ピット (12)	299
第301図	ピット (13)	300
第302図	ピット (14)	301
第303図	ピット (15)	302
第304図	ピット (16)	303
第305図	ピット (17)	304
第306図	ピット出土遺物	316

(第2分冊)

第307図	溝跡・道路状遺構全体図 (1)	318
第308図	溝跡・道路状遺構全体図 (2)	319
第309図	溝跡 (1)	320
第310図	溝跡 (2)	322
第311図	溝跡出土遺物 (1)	324
第312図	溝跡出土遺物 (2)	325
第313図	溝跡出土遺物 (3)	327
第314図	溝跡出土遺物 (4)	329
第315図	溝跡 (3)	330
第316図	溝跡出土遺物 (5)	332
第317図	溝跡 (4)	334
第318図	溝跡出土遺物 (6)	336
第319図	溝跡 (5)	338
第320図	溝跡 (6)	340
第321図	溝跡 (7)	343
第322図	溝跡出土遺物 (7)	345
第323図	溝跡 (8)	347
第324図	溝跡出土遺物 (8)	348
第325図	溝跡出土遺物 (9)	349
第326図	溝跡 (9)	350
第327図	溝跡 (10)	351
第328図	第762号溝跡区割図	352
第329図	第762号溝跡遺物出土状況 (1)	353
第330図	第762号溝跡遺物出土状況 (2)	354
第331図	第762号溝跡遺物出土状況 (3)	355
第332図	第762号溝跡遺物出土状況 (4)	356
第333図	第762号溝跡遺物出土状況 (5)	357
第334図	溝跡出土遺物 (10)	358
第335図	溝跡出土遺物 (11)	359
第336図	溝跡出土遺物 (12)	360
第337図	溝跡出土遺物 (13)	361
第338図	溝跡出土遺物 (14)	362
第339図	溝跡出土遺物 (15)	363
第340図	溝跡出土遺物 (16)	364
第341図	溝跡 (11)	368
第342図	溝跡 (12)	369
第343図	溝跡出土遺物 (17)	370
第344図	溝跡出土遺物 (18)	371
第345図	溝跡 (13)	372
第346図	溝跡 (14)	373
第347図	溝跡 (15)	374
第348図	溝跡 (16)	375
第349図	第792・795・796号溝跡区割図	376
第350図	第792・795・796号溝跡遺物出土状況 (1)	377
第351図	第792・795・796号溝跡遺物出土状況 (2)	378
第352図	第792・795・796号溝跡遺物出土状況 (3)	379
第353図	第792・795・796号溝跡遺物出土状況 (4)	380
第354図	第792・795・796号溝跡遺物出土状況 (5)	381
第355図	第792・795・796号溝跡遺物出土状況 (6)	382
第356図	溝跡出土遺物 (19)	383
第357図	溝跡出土遺物 (20)	384
第358図	溝跡出土遺物 (21)	385

第359図	溝跡出土遺物 (22)	386	第395図	谷部南側出土遺物 (3)	436
第360図	溝跡出土遺物 (23)	387	第396図	谷部南側出土遺物 (4)	437
第361図	溝跡出土遺物 (24)	388	第397図	谷部南側出土遺物 (5)	438
第362図	溝跡出土遺物 (25)	389	第398図	谷部南側出土遺物 (6)	439
第363図	溝跡出土遺物 (26)	390	第399図	谷部南側出土遺物 (7)	440
第364図	溝跡出土遺物 (27)	391	第400図	谷部南側出土遺物 (8)	441
第365図	溝跡出土遺物 (28)	392	第401図	谷部南側出土遺物 (9)	442
第366図	溝跡出土遺物 (29)	393	第402図	谷部南側出土遺物 (10)	443
第367図	溝跡出土遺物 (30)	394	第403図	谷部南側出土遺物 (11)	444
第368図	溝跡出土遺物 (31)	395	第404図	谷部南側出土遺物 (12)	445
第369図	溝跡出土遺物 (32)	396	第405図	谷部南側出土遺物 (13)	446
第370図	溝跡 (17)	398	第406図	谷部南側出土遺物 (14)	447
第371図	溝跡 (18)	399	第407図	谷部南側出土遺物 (15)	448
第372図	溝跡 (19)	403	第408図	谷部南側出土遺物 (16)	449
第373図	溝跡出土遺物 (33)	404	第409図	谷部南側出土遺物 (17)	450
第374図	第3号道路状遺構	413	第410図	谷部南側出土遺物 (18)	451
第375図	谷部位置図	414	第411図	谷部南側出土遺物 (19)	452
第376図	谷部北側出土遺物 (1)	415	第412図	谷部南側出土遺物 (20)	453
第377図	谷部北側出土遺物 (2)	416	第413図	谷部南側出土遺物 (21)	454
第378図	谷部南側区劃図	418	第414図	谷部南側出土遺物 (22)	455
第379図	谷部南側土層断面 (1)	419	第415図	グリッド・表採出土遺物 (1)	462
第380図	谷部南側土層断面 (2)	420	第416図	グリッド・表採出土遺物 (2)	463
第381図	谷部南側遺物出土状況 (1)	421	第417図	グリッド・表採出土遺物 (3)	464
第382図	谷部南側遺物出土状況 (2)	422	第418図	グリッド・表採出土遺物 (4)	465
第383図	谷部南側遺物出土状況 (3)	423	第419図	グリッド・表採出土遺物 (5)	466
第384図	谷部南側遺物出土状況 (4)	424	第420図	グリッド・表採出土遺物 (6)	467
第385図	谷部南側遺物出土状況 (5)	425	第421図	グリッド・表採出土遺物 (7)	468
第386図	谷部南側遺物出土状況 (6)	426	第422図	縄文時代の石器 (1)	471
第387図	谷部南側遺物出土状況 (7)	427	第423図	縄文時代の石器 (2)	472
第388図	谷部南側遺物出土状況 (8)	428	第424図	遺構変遷図 (弥生後期～古墳時代前期)	
第389図	谷部南側遺物出土状況 (9)	430		473
第390図	谷部南側遺物出土状況 (10)	431	第425図	遺構変遷図 (古墳時代中・後期)	474
第391図	谷部南側遺物出土状況 (11)	432	第426図	遺構変遷図 (奈良・平安時代)	475
第392図	谷部南側遺物出土状況 (12)	433	第427図	遺構変遷図 (中世)	476
第393図	谷部南側出土遺物 (1)	434	第428図	方形周溝墓分布図	478
第394図	谷部南側出土遺物 (2)	435			

表目次

(第1分冊)

第1表	周辺遺跡一覧表	9
第2表	下田町遺跡調査概要	11
第3表	方形周溝墓出土遺物観察表(1)	54
第4表	方形周溝墓出土遺物観察表(2)	55
第5表	住居跡出土遺物観察表(1)	198
第6表	住居跡出土遺物観察表(2)	199
第7表	住居跡出土遺物観察表(3)	200
第8表	住居跡出土遺物観察表(4)	201
第9表	住居跡出土遺物観察表(5)	202
第10表	住居跡出土遺物観察表(6)	203
第11表	住居跡出土遺物観察表(7)	204
第12表	住居跡出土遺物観察表(8)	205
第13表	住居跡出土遺物観察表(9)	206
第14表	住居跡出土遺物観察表(10)	207
第15表	第53号掘立柱建物跡出土遺物観察表	212
第16表	井戸跡出土遺物観察表(1)	236
第17表	井戸跡出土遺物観察表(2)	237
第18表	性格不明遺構出土遺物観察表(1)	246
第19表	性格不明遺構出土遺物観察表(2)	247
第20表	土坑出土遺物観察表	280
第21表	ピット一覧表(1)	305
第22表	ピット一覧表(2)	306
第23表	ピット一覧表(3)	307
第24表	ピット一覧表(4)	308
第25表	ピット一覧表(5)	309
第26表	ピット一覧表(6)	310

第27表	ピット一覧表(7)	311
第28表	ピット一覧表(8)	312
第29表	ピット一覧表(9)	313
第30表	ピット一覧表(10)	314
第31表	ピット一覧表(11)	315
第32表	ピット出土遺物観察表	316

(第2分冊)

第33表	溝跡出土遺物観察表(1)	405
第34表	溝跡出土遺物観察表(2)	406
第35表	溝跡出土遺物観察表(3)	407
第36表	溝跡出土遺物観察表(4)	408
第37表	溝跡出土遺物観察表(5)	409
第38表	溝跡出土遺物観察表(6)	410
第39表	溝跡出土遺物観察表(7)	411
第40表	溝跡出土遺物観察表(8)	412
第41表	谷部出土遺物観察表(1)	456
第42表	谷部出土遺物観察表(2)	457
第43表	谷部出土遺物観察表(3)	458
第44表	谷部出土遺物観察表(4)	459
第45表	谷部出土遺物観察表(5)	460
第46表	谷部出土遺物観察表(6)	461
第47表	グリッド・表採出土遺物観察表(1)	468
第48表	グリッド・表採出土遺物観察表(2)	469
第49表	グリッド・表採出土遺物観察表(3)	470
第50表	使用樹種傾向	480
第51表	農具の樹種	482

図版目次

(第1分冊)

口絵1 下田町遺跡第2～5次調査区全景(合成)

口絵2 第4次調査東区全景

第5次調査北端全景

口絵3 第5次調査北半全景

第5次調査南半全景

口絵4 第11号方形周溝墓

第11号方形周溝墓出土土器

口絵5 第12号方形周溝墓マウンド全景

第12号方形周溝墓マウンド土層断面

口絵6 第12号方形周溝墓出土土器

第17号方形周溝墓出土土器

口絵7 第17号方形周溝墓出土壺形土器(第38図2)

第18号方形周溝墓遺物出土状況

口絵8 玉類一括(子持勾玉・勾玉・管玉ほか)

第792号溝跡出土土器

(第2分冊)

図版1 1 遺跡遠景(西から)

2 第4次調査東区全景(北西から)

図版2 1 第5次調査北半全景(東から)

2 第5次調査南半全景(北から)

図版3 1 第5次調査北半近景(北から)

2 第5次調査南側住居跡群(北から)

図版4 1 第11号方形周溝墓①

2 第11号方形周溝墓②

図版5 1 第11号方形周溝墓北溝

2 第11号方形周溝墓遺物出土状況①

3 第11号方形周溝墓遺物出土状況②

4 第11号方形周溝墓遺物出土状況③

5 第12号方形周溝墓(第4次調査分)

図版6 1 第12号方形周溝墓北溝

2 第12号方形周溝墓マウンド土層断面

3 第12号方形周溝墓北溝土層断面

4 第12号方形周溝墓東溝土層断面

5 第12号方形周溝墓遺物出土状況①

6 第12号方形周溝墓遺物出土状況②

7 第12号方形周溝墓遺物出土状況③

8 第12号方形周溝墓遺物出土状況④

図版7 1 第12号方形周溝墓(第5次調査分)

2 第12号方形周溝墓マウンド

図版8 1 第12号方形周溝墓マウンド土層断面①

2 第12号方形周溝墓マウンド土層断面②

図版9 1 第12号方形周溝墓①

2 第12号方形周溝墓②

図版10 1 第12号方形周溝墓上層遺物出土状況①

2 第12号方形周溝墓上層遺物出土状況②

3 第12号方形周溝墓上層遺物出土状況③

4 第12号方形周溝墓下層遺物出土状況①

5 第12号方形周溝墓下層遺物出土状況②

6 第12号方形周溝墓下層遺物出土状況③

7 第12号方形周溝墓下層遺物出土状況④

8 第12号方形周溝墓調査風景

図版11 1 第14号方形周溝墓

2 第15～18号方形周溝墓(東から)

図版12 1 第15～18号方形周溝墓(南から)

2 第15号方形周溝墓①

図版13 1 第16号方形周溝墓

2 第15号方形周溝墓②

3 第15号方形周溝墓東溝遺物出土状況

4 第16号方形周溝墓東溝遺物出土状況①

5 第16号方形周溝墓東溝遺物出土状況②

図版14 1 第17号方形周溝墓

2 第17号方形周溝墓遺物出土状況①

3 第17号方形周溝墓遺物出土状況②

4 第17号方形周溝墓遺物出土状況③

5 第17号方形周溝墓埴形土器出土状態

図版15 1 第18号方形周溝墓

2 第18号方形周溝墓遺物出土状況①

3 第18号方形周溝墓遺物出土状況②

4 第18号方形周溝墓遺物出土状況③

	5	第19号方形周溝墓	図版22	1	第344号住居跡カマド
図版16	1	第324号住居跡		2	第344号住居跡貯蔵穴1・2
	2	第325号住居跡		3	第345号住居跡
	3	第325号住居跡カマド		4	第345号住居跡石製模造品出土状況
	4	第326号住居跡		5	第346号住居跡
	5	第327号住居跡		6	第346号住居跡カマド
	6	第328号住居跡		7	第346号住居跡カマド遺物出土状況
	7	第330号住居跡		8	第347号住居跡
	8	第330号住居跡カマド	図版23	1	第348号住居跡
図版17	1	第330号住居跡遺物出土状況		2	第348号住居跡カマド
	2	第331号住居跡		3	第350号住居跡
	3	第330号住居跡遺物出土状況①		4	第350号住居跡貯蔵穴
	4	第330号住居跡遺物出土状況②		5	第351号住居跡貯蔵穴
	5	第332号住居跡	図版24	1	第352号住居跡
図版18	1	第333号住居跡		2	第353号住居跡
	2	第333号住居跡カマド		3	第355号住居跡
	3	第333号住居跡遺物出土状況		4	第357号住居跡
	4	第334号住居跡		5	第359号住居跡
	5	第335号住居跡		6	第360号住居跡
図版19	1	第336・337号住居跡		7	第361号住居跡
	2	第336号住居跡勾玉出土状況		8	第362号住居跡
	3	第338号住居跡	図版25	1	第363号住居跡
	4	第339号住居跡		2	第363号住居跡カマド
	5	第340号住居跡		3	第363号住居跡遺物出土状況
図版20	1	第340号住居跡カマド1		4	第363号住居跡カマド遺物出土状況①
	2	第340号住居跡カマド1遺物出土状況		5	第363号住居跡カマド遺物出土状況②
	3	第340号住居跡カマド2	図版26	1	第364号住居跡
	4	第340号住居跡貯蔵穴		2	第364号住居跡カマド
	5	第340号住居跡遺物出土状況		3	第364号住居跡遺物出土状況
	6	第341号住居跡		4	第365号住居跡
	7	第342号住居跡		5	第365号住居跡遺物出土状況
	8	第342号住居跡カマド	図版27	1	第366号住居跡
図版21	1	第343号住居跡		2	第366号住居跡カマド
	2	第343号住居跡炉1		3	第367号住居跡
	3	第343号住居跡炉2		4	第367号住居跡カマド
	4	第343号住居跡遺物出土状況		5	第367号住居跡遺物出土状況①
	5	第344・351・358・359号住居跡		6	第367号住居跡遺物出土状況②

	7	第368号住居跡		4	第400号住居跡遺物出土状況①
	8	第368号住居跡カマド		5	第400号住居跡遺物出土状況②
図版28	1	第369号住居跡	図版33	1	第401号住居跡
	2	第371号住居跡		2	第402号住居跡
	3	第371号住居跡カマド		3	第403号住居跡
	4	第372号住居跡		4	第404号住居跡
	5	第372号住居跡カマド		5	第404号住居跡カマド
	6	第373・374・379号住居跡		6	第404号住居跡カマド袖遺物出土状況
	7	第373号住居跡貯蔵穴		7	第404号住居跡遺物出土状況
	8	第375号住居跡		8	第405号住居跡
図版29	1	第376号住居跡	図版34	1	第406号住居跡
	2	第376号住居跡カマド		2	第406号住居跡ビット1
	3	第376号住居跡遺物出土状況①		3	第406号住居跡管玉出土状況
	4	第376号住居跡遺物出土状況②		4	第407~410号住居跡
	5	第376号住居跡ビット2		5	第407号住居跡
	6	第378・385号住居跡		6	第407号住居跡貯蔵穴
	7	第380・382・383・387号住居跡		7	第411号住居跡
	8	第381号住居跡		8	第411号住居跡遺物出土状況
図版30	1	第384号住居跡	図版35	1	第412・413号住居跡
	2	第386号住居跡		2	第414・415号住居跡
	3	第388号住居跡		3	第414号住居跡貯蔵穴
	4	第389号住居跡		4	第416・417号住居跡
	5	第389号住居跡カマド		5	第418・423号住居跡
	6	第389号住居跡貯蔵穴		6	第420号住居跡カマド遺物出土状況
	7	第390号住居跡		7	第420号住居跡遺物出土状況
	8	第391号住居跡		8	第422号住居跡
図版31	1	第392号住居跡	図版36	1	第53号掘立柱建物跡
	2	第392号住居跡カマド		2	第53号掘立柱建物跡 P5
	3	第394号住居跡		3	第53号掘立柱建物跡 P6
	4	第394号住居跡遺物出土状況		4	第52号掘立柱建物跡
	5	第395・396号住居跡		5	第54号掘立柱建物跡
	6	第397号住居跡	図版37	1	第389号井戸跡
	7	第398号住居跡		2	第390号井戸跡
	8	第399号住居跡		3	第390号井戸跡曲物出土状況
図版32	1	第400号住居跡		4	第391号井戸跡
	2	第400号住居跡炉		5	第394号井戸跡
	3	第400号住居跡貯蔵穴		6	第394号井戸跡木製品出土状況

	7 第395号井戸跡	4 第8号竪穴状不明遺構遺物出土状況②
	8 第396号井戸跡遺物出土状況	5 第9号竪穴状不明遺構
図版38	1 第397号井戸跡	図版43 1 第660号土坑
	2 第397号井戸跡遺物出土状況	2 第663号土坑
	3 第400号井戸跡	3 第670号土坑
	4 第401号井戸跡	4 第672号土坑
	5 第402号井戸跡	5 第675号土坑
	6 第403号井戸跡	6 第678号土坑
	7 第404号井戸跡	7 第680号土坑
	8 第404号井戸跡遺物出土状況	8 第682号土坑
図版39	1 第405号井戸跡	図版44 1 第683号土坑
	2 第407号井戸跡	2 第686・687号土坑
	3 第408号井戸跡	3 第689号土坑
	4 第408号井戸跡遺物出土状況	4 第692号土坑
	5 第409号井戸跡	5 第703号土坑
	6 第410号井戸跡	6 第703号土坑焼土・炭化物検出状況
	7 第412号井戸跡	7 第706号土坑
	8 第413号井戸跡、第765号土坑	8 第709号土坑
図版40	1 第414号井戸跡	図版45 1 第711号土坑
	2 第414号井戸跡木製漆塗桶出土状況	2 第712号土坑
	3 第415号井戸跡	3 第712号土坑炭化物検出状況
	4 第416号井戸跡	4 第715号土坑
	5 第417号井戸跡	5 第716号土坑
	6 第418号井戸跡	6 第721号土坑
	7 第419号井戸跡	7 第723号土坑
	8 第419号井戸跡遺物出土状況	8 第725号土坑
図版41	1 第420号井戸跡	図版46 1 第729号土坑
	2 第421号井戸跡	2 第730号土坑
	3 第421号井戸跡井戸杵出土状況①	3 第736号土坑
	4 第421号井戸跡井戸杵出土状況②	4 第737号土坑
	5 第422号井戸跡	5 第739号土坑
	6 第422号井戸跡遺物出土状況	6 第740号土坑
	7 第423号井戸跡	7 第745号土坑
	8 第424号井戸跡	8 第751号土坑
図版42	1 第7号円形周溝状遺構	図版47 1 第754号土坑
	2 第8号竪穴状不明遺構	2 第755号土坑
	3 第8号竪穴状不明遺構遺物出土状況①	3 第756号土坑

- 4 第758号土坑遺物出土狀況
 5 第761号土坑
 6 第761号土坑遺物出土狀況
 7 第763号土坑
 8 第777号土坑
 图版48 1 第778号土坑
 2 第783号土坑遺物出土狀況
 3 第796号土坑
 4 第798号土坑
 5 第800号土坑、O46G P3
 6 第803号土坑
 7 第806号土坑
 8 第828号土坑
 图版49 1 M27G P1
 2 K28G P15
 3 O28G P4
 4 O32G P21
 5 N33G P57
 6 Q46G P31
 7 Q47G P11
 8 P48G P15
 图版50 1 第655号溝跡
 2 第655号溝跡紡錘車出土狀況
 3 第657·658号溝跡
 4 第660~663·679号溝跡
 5 第666·667号溝跡
 6 第671号溝跡
 7 第671号溝跡子持勾玉出土狀況
 8 第671号溝跡遺物出土狀況
 图版51 1 第673~675号溝跡
 2 第673·674·732·733号溝跡
 3 第674号溝跡遺物出土狀況
 4 第680号溝跡
 5 第684~687·710号溝跡
 6 第691~693号溝跡
 7 第697号溝跡
 8 第698号溝跡
 图版52 1 第706·718·719号溝跡
 2 第731号溝跡紡錘車出土狀況
 3 第731号溝跡遺物出土狀況
 4 第736~740·746·747号溝跡
 5 第745号溝跡
 6 第753·754号溝跡
 7 第753号溝跡遺物出土狀況
 8 第755号溝跡
 图版53 1 第762号溝跡
 2 第762号溝跡遺物出土狀況①
 3 第762号溝跡遺物出土狀況②
 4 第762号溝跡遺物出土狀況③
 5 第762号溝跡遺物出土狀況④
 6 第764·766号溝跡
 7 第767号溝跡
 8 第779号溝跡
 图版54 1 第789·806号溝跡
 2 第792·795·796·798号溝跡
 3 第792号溝跡遺物出土狀況①
 4 第792号溝跡遺物出土狀況②
 5 第795·796号溝跡遺物出土狀況①
 6 第795·796号溝跡遺物出土狀況②
 7 第795·796号溝跡遺物出土狀況③
 8 第804·805号溝跡
 图版55 1 第809号溝跡
 2 第809号溝跡遺物出土狀況①
 3 第809号溝跡遺物出土狀況②
 4 第810号溝跡
 5 第816·817号溝跡
 6 第820·822号溝跡
 7 第823~825·831号溝跡
 8 第3号道路状遺構
 图版56 1 O44G 谷部土層断面
 2 N47G 谷部土層断面
 图版57 1 P40G 谷部金環出土狀況
 2 P40G 谷部遺物出土狀況
 3 P41G 谷部遺物出土狀況

	4 P42·43G 谷部遺物出土狀況		第365号住居跡出土遺物
	5 P42G 谷部遺物出土狀況①	図版68	第367号住居跡出土遺物
	6 P42G 谷部遺物出土狀況②		第370号住居跡出土遺物
	7 O·P43G 谷部遺物出土狀況		第372号住居跡出土遺物
	8 P43G 谷部遺物出土狀況①		第375号住居跡出土遺物
図版58	1 P43G 谷部遺物出土狀況②		第376号住居跡出土遺物
	2 O44G 谷部遺物出土狀況①	図版69	第376号住居跡出土遺物
	3 O44G 谷部遺物出土狀況②		第377号住居跡出土遺物
	4 O44G 谷部剣形模造品出土狀況		第381号住居跡出土遺物
	5 O46G 谷部遺物出土狀況		第382号住居跡出土遺物
	6 O46G 谷部曲物出土狀況		第383号住居跡出土遺物
	7 O46G 谷部鉄鎌出土狀況	図版70	第384号住居跡出土遺物
	8 M47G 谷部遺物出土狀況		第385号住居跡出土遺物
図版59	第11号方形周溝墓出土遺物		第396号住居跡出土遺物
図版60	第11号方形周溝墓出土遺物		第397号住居跡出土遺物
	第12号方形周溝墓出土遺物	図版71	第399号住居跡出土遺物
図版61	第12号方形周溝墓出土遺物		第400号住居跡出土遺物
図版62	第12号方形周溝墓出土遺物		第403号住居跡出土遺物
	第15号方形周溝墓出土遺物		第404号住居跡出土遺物
	第16号方形周溝墓出土遺物		第406号住居跡出土遺物
図版63	第17号方形周溝墓出土遺物	図版72	第406号住居跡出土遺物
図版64	第18号方形周溝墓出土遺物		第414号住居跡出土遺物
図版65	第326号住居跡出土遺物		第422号住居跡出土遺物
	第330号住居跡出土遺物		第394号井戸跡出土遺物
	第331号住居跡出土遺物		第395号井戸跡出土遺物
	第333号住居跡出土遺物	図版73	第396号井戸跡出土遺物
	第334号住居跡出土遺物		第403号井戸跡出土遺物
	第340号住居跡出土遺物		第418号井戸跡出土遺物
図版66	第344号住居跡出土遺物		第8号竖穴状不明遺構出土遺物
	第346号住居跡出土遺物	図版74	第8号竖穴状不明遺構出土遺物
	第348号住居跡出土遺物		第660号土坑出土遺物
	第350号住居跡出土遺物		第698号土坑出土遺物
	第351号住居跡出土遺物		第716号土坑出土遺物
	第357号住居跡出土遺物		第725号土坑出土遺物
	第361号住居跡出土遺物		第736号土坑出土遺物
図版67	第363号住居跡出土遺物		第803号土坑出土遺物
	第364号住居跡出土遺物	図版75	N33G P7出土遺物

	P48G P15出土遺物		第350号住居跡出土遺物
	第655号溝跡出土遺物		第363号住居跡出土遺物
	第673号溝跡出土遺物	図版88	第363号住居跡出土遺物
	第674号溝跡出土遺物		第364号住居跡出土遺物
	第675号溝跡出土遺物		第367号住居跡出土遺物
	第680号溝跡出土遺物	図版89	第367号住居跡出土遺物
	第688号溝跡出土遺物		第370号住居跡出土遺物
図版76	第702号溝跡出土遺物		第371号住居跡出土遺物
	第747号溝跡出土遺物		第375号住居跡出土遺物
	第753号溝跡出土遺物	図版90	第376号住居跡出土遺物
	第762号溝跡出土遺物		第380号住居跡出土遺物
図版77	第762号溝跡出土遺物		第381号住居跡出土遺物
	第792号溝跡出土遺物		第393号住居跡出土遺物
図版78	第792号溝跡出土遺物		第398号住居跡出土遺物
図版79	第792号溝跡出土遺物		第400号住居跡出土遺物
	第793号溝跡出土遺物	図版91	第400号住居跡出土遺物
	第795号溝跡出土遺物		第404号住居跡出土遺物
	第796号溝跡出土遺物		第406号住居跡出土遺物
図版80	第796号溝跡出土遺物		第407号住居跡出土遺物
	第809号溝跡出土遺物		第397号井戸跡出土遺物
	第810号溝跡出土遺物	図版92	第404号井戸跡出土遺物
	第822号溝跡出土遺物		第8号竪穴状不明遺構出土遺物
	谷部出土遺物		第683号土坑出土遺物
図版81	谷部出土遺物		P46G P14出土遺物
図版82	谷部出土遺物		Q46G P10I出土遺物
図版83	谷部出土遺物		第671号溝跡出土遺物
図版84	谷部出土遺物	図版93	第671号溝跡出土遺物
	グリッド・表採出土遺物		第674号溝跡出土遺物
図版85	グリッド・表採出土遺物		第731号溝跡出土遺物
図版86	第331号住居跡出土遺物		第747号溝跡出土遺物
	第333号住居跡出土遺物	図版94	第753号溝跡出土遺物
	第340号住居跡出土遺物		第762号溝跡出土遺物
	第343号住居跡出土遺物	図版95	第762号溝跡出土遺物
図版87	第344号住居跡出土遺物		第783号溝跡出土遺物
	第345号住居跡出土遺物		第794号溝跡出土遺物
	第346号住居跡出土遺物	図版96	谷部出土遺物
	第348号住居跡出土遺物	図版97	谷部出土遺物

- 図版98 谷部出土遺物
- 図版99 谷部出土遺物
- 図版100 谷部出土遺物
- 図版101 谷部出土遺物
- 図版102 谷部出土遺物
グリッド・表採出土遺物
- 図版103 グリッド・表採出土遺物
- 図版104 第331号住居跡出土遺物
第345号住居跡出土遺物
第346号住居跡出土遺物
第363号住居跡出土遺物
- 図版105 第363号住居跡出土遺物
- 図版106 第364号住居跡出土遺物
第365号住居跡出土遺物
第367号住居跡出土遺物
- 図版107 第373号住居跡出土遺物
第376号住居跡出土遺物
第377号住居跡出土遺物
第384号住居跡出土遺物
- 図版108 第385号住居跡出土遺物
第394号住居跡出土遺物
第397号住居跡出土遺物
第400号住居跡出土遺物
- 図版109 第406号住居跡出土遺物
第411号住居跡出土遺物
第414号住居跡出土遺物
第420号住居跡出土遺物
- 図版110 第709号土坑出土遺物
第758号土坑出土遺物
第761号土坑出土遺物
- 図版111 第676号溝跡出土遺物
第706号溝跡出土遺物
第762号溝跡出土遺物
- 図版112 第762号溝跡出土遺物
- 図版113 第762号溝跡出土遺物
谷部出土遺物
- 図版114 谷部出土遺物
- 図版115 谷部出土遺物
- 図版116 谷部出土遺物
- 図版117 谷部出土遺物
- 図版118 谷部出土遺物
グリッド・表採出土遺物
- 図版119 第400号住居跡出土遺物
第666号溝跡出土遺物
第671号溝跡出土遺物
第680号溝跡出土遺物
第689号溝跡出土遺物
第753号溝跡出土遺物
第762号溝跡出土遺物
谷部出土遺物
グリッド・表採出土遺物
- 図版120 紡錘車、紡錘車未製品
砥石、板碑
- 図版121 須恵器1・2
- 図版122 灰釉陶器1・2
- 図版123 緑釉陶器1（外面）
緑釉陶器2（内面）
- 図版124 中世陶磁器、瀬戸
- 図版125 常滑1・2
- 図版126 常滑3
中世陶器
- 図版127 玉類
石製模造品1
- 図版128 石製模造品2・3
- 図版129 砥石、土製品
- 図版130 鉄製品、銭貨
- 図版131 打製石斧1・2
- 図版132 木製品1
- 図版133 木製品2
- 図版134 木製品3
- 図版135 木製品4
- 図版136 木製品5

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所では、洪水による被害を防ぐための治水事業として、スーパー堤防事業を行っている。

荒川右岸に面した大里町（現熊谷市）津田地先地区においても、洪水時における水防活動を支援するための、復旧活動の拠点や大里町公園整備、環境センター、プール、テニスコートなどのスポーツエリアなどを建設して、引き続きスーパー堤防と一体で整備を目指すこととなった。

県教育局生涯学習部文化財保護課（当時）では、この事業の推進に伴う埋蔵文化財の保護について、従前より荒川上流河川事務所と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

当事業にかかる埋蔵文化財包蔵地の取扱いについては、建設省荒川上流工事事務所長（当時）より県教育長あて、平成12年11月13日付け荒上事計第30号で、埋蔵文化財の所在について照会があった。

これに対して文化財保護課（当時）では、確認調査を実施したうえで、平成13年1月18日付け教文第871号で、下田町遺跡の取扱いについて次のように回答した。

1 埋蔵文化財の所在

工事予定地には以下の埋蔵文化財が所在する。

名称	種別	時代	所在地
下田町遺跡 (No.64-055)	集落跡	古墳・平安	大里町大字津田字下田 1542番地他

2 取扱い

上記の埋蔵文化財は、現状保存することが望ましいが、事業計画上やむを得ず現状を変更する場合は、事前に文化財保護法第57条3（現第94条）の規定に基づく、埼玉県教育委員会教育長あての発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査を実施すること。

発掘調査については、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施機関としてあたることとし、事業団・荒川上流河川事務所・文化財保護課（当時）の三者により、調査方法・期間・経費等についての協議が行われた。その結果、調査は平成13年6月1日から平成17年3月31日までの予定で実施されることとなった。

荒川上流河川事務所長から文化財保護法第57条の3（現第94条）の規定による埋蔵文化財発掘通知が提出され（平成13年6月21日付け教文第3-21）、調査に先立ち、第57条1項（現第92条）の規定による発掘調査届が財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出された。

発掘調査届に対する指示通知番号は、次のとおりである。

平成13年7月1日付け 教文第2-37号

平成14年6月19日付け 教文第2-58号

平成15年5月19日付け 教文第2-15号

平成16年5月10日付け 教文第2-15号

（生涯学習文化財課）

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

国土交通省による大里地区高規格堤防整備事業に伴う下田町遺跡の発掘調査は、平成13年度から16年度までの4か年に亘って計画された。第5次調査は、平成16年4月8日から平成17年3月24日まで実施され、調査面積は、8,500㎡であった。

平成17年4月中旬に発掘届け等の事務手続き、5月下旬には事務所設置を終了した。調査範囲の南端はヘリポートであったため、事業者により舗装部分の除去が行われた。加えて、遺構確認面までの掘削深度が深いことから、作業の安全面と効率を考慮して土留めのためのシートパイルの打ち込みと約1mの表土の掘削を先行して行ってもらった。

6月から重機による残りの表土掘削を実施した。調査範囲の約1/3が終了した段階で、補助員を投入し、調査を開始した。調査は、昨年度の延長部分である北側から着手し、人力での遺構確認・遺構精査を順次行い、中旬には基準点測量を実施した。

当初の予想より掘削深度が深いことがあり、全ての表土剥ぎが終了したのは8月の中旬であった。その結果、調査区の中央には谷部が入り込んでいたが、遺構の密度が低いと予想されていた調査区南側は遺構の重複が著しく、調査は困難を極めた。

発掘調査は、盛土工事と並行して行った関係上、調査区を3ブロックに分けて引渡しを行わなければならなかったため、空中写真撮影も9月上旬、11月下旬、1月下旬の3回に分けて実施した。

調査の結果、堅穴住居跡94軒、掘立柱建物跡2棟、方形周溝墓6基、井戸跡24基、土壇148基、溝跡97条、ピットなどを検出した。遺物は、古墳時代前期から後期の土師器・須恵器が主体で、ほかに石製品・木製品・鉄製品などが出土した。遺物量は、コンテナで総数266箱であった。

なお、調査区北側の方形周溝墓群の調査にあわせ、

教育・普及事業の一環として、9月4日に本遺跡では第4回目となる現地説明会を開催し、164名もの多数の見学者が訪れた。

(2) 整理・報告書の作成

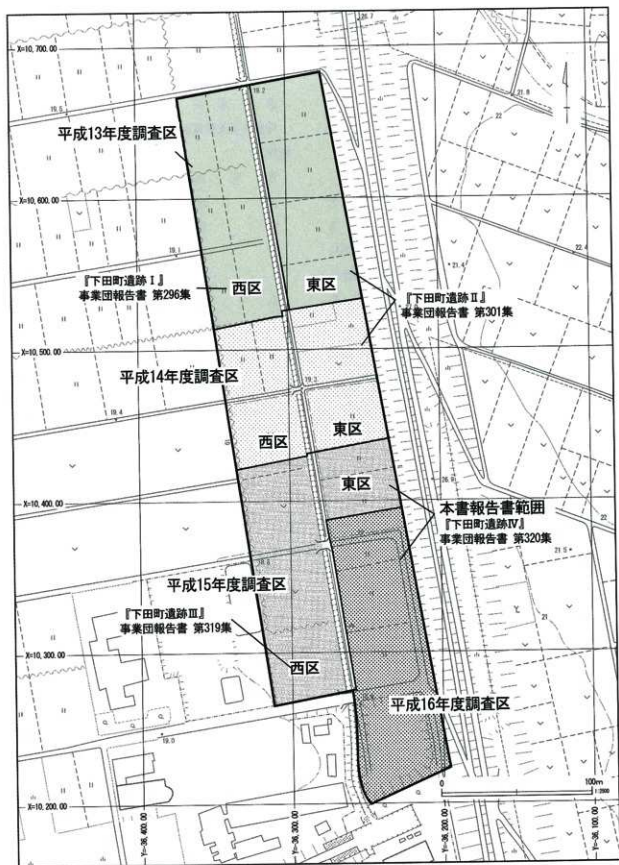
整理・報告書作成は、平成17年7月1日から開始し、平成18年3月24日まで実施した。

7月は、遺跡から出土した遺物の水洗、注記を行い、順次、接合・復原作業に着手した。8月からは、接合が終了した遺構の分類を行った後、土器・木製品の実測を開始した。遺物の作業と並行して、全体図、遺構の二次原因の作成を行なった。遺構の二次原因図を終了したものについては、イラストレーターでトレースを開始した。また、各遺構の土層注記の入力も行った。

9月からは、土器の実測と並行して、トレースを開始した。実測作業が進んだ10月には、破片資料の拓本作業を行い、遺物の観察表の入力も同時に行った。9月一杯で遺構の二次原因の作業を終わらせ、イラストレーターでのトレースを進め、11月からは全体図の作成も行った。遺物の出土している遺構については分布図を作成し、トレースを行った。

11月の中旬に遺物の実測が終了した段階で、石膏部分の色付けを行った後、12月には遺物の写真撮影を行った。また、トレースが終了したものについては図版作成を行った。遺構については、イラストレーターによるトレースと並行して、遺構・遺物の各種表の作成を行いながら、原稿の執筆を開始する。

1月中に遺構・遺物の版組を全て終了し、2月中旬までで原稿執筆を終了させた。2・3月は、印刷業者の入札後、3回の校正を経て、報告書を印刷、刊行した。3月末には作業が終了した図面、写真、遺物等を整理・分類し、収納作業を行ない、全ての作業を終了した。



第1図 下田町遺跡調査区分図

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査 (平成16年度)

理事長 福田 陽 充
副理事長 飯塚 誠一郎
常務理事兼管理部長 中村 英 樹

管理部

副部長 村田 健 二
主 席 田中 由 夫
主 任 江田 和 美
(~6月30日)
主 任 長 滝 美智子
主 任 福田 昭 美
主 任 菊池 久
主 事 海老名 健
(6月1日~)
主 事 石原 良子
(6月1日~)

調査部

調査部長 宮崎 朝 雄
調査副部長 坂野 和 信
主席調査員 (調査第一担当) 昼間 孝 志
(10月1日~10月31日)
統括調査員 木戸 春 夫
(11月1日~)
統括調査員 瀧 瀬 芳 之
主任調査員 中山 浩 彦
調 査 員 松 本 美 佐 子
(6月1日~)

(2) 整理・報告書刊行 (平成17年度)

理事長 福田 陽 充
副理事長 飯塚 誠一郎
常務理事兼管理部長 保 永 清 光

管理部

管 理 部 村田 健 二
主 席 高橋 義 和
主 席 宮井 英 一
主 任 長 滝 美智子
(~8月5日)
主 任 福田 昭 美
主 任 菊池 久
主 事 海老名 健
(~3月15日)
主 事 岩上 浩 子
(8月1日~)
主 事 結城 淑 恵
(3月1日~)

調査部

調査部長 今泉 泰 之
調査部副部長 坂野 和 信
主席調査員 (資料整理第一担当) 磯崎 一
統括調査員 赤熊 浩 一
統括調査員 瀧 瀬 芳 之
主任調査員 中山 浩 彦

Ⅱ 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

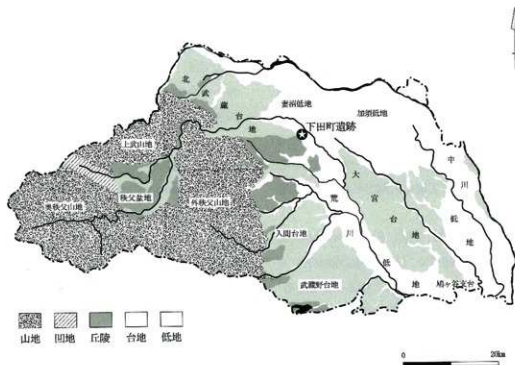
下田町遺跡は、埼玉県大里郡大里町（現熊谷市）大字津田字埋田町1775番地ほかに所在する。埼玉県大里町は、地形的に見て、関東平野のなかでも西縁にあって、関東構造盆地の周縁部と中央部の中間地帯にあたり、荒川中流域右岸に位置している。町は、西にある比企丘陵と東の荒川に挟まれた低地帯に位置する。

大里町は、近年の宅地化と人口増加もあり、平成13年に町制が施行された。大里町の西側を南北に国道407号線が走る。国道は熊谷市と東松山市を結び、大里町はその中間にあたる。町全体は、畑地と水田の広がる農村地帯である。大里町には鉄道の駅はなく、下田町遺跡は隣町にあるJR高崎線久上駅から西北西の方向に約2.75kmの位置にある。

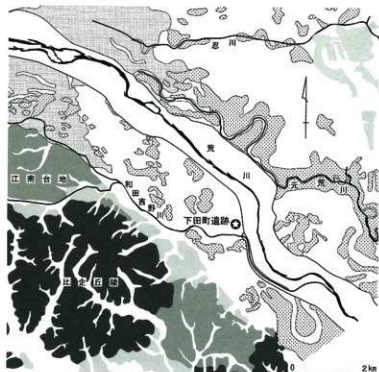
西側にある比企丘陵は、荒川右岸に分布する江南台地、吉見丘陵、東松山台地、岩殿丘陵、高坂台地、入間台地などの複数の丘陵の一つである。比企丘陵

は、北の江南台地と南の東松山台地に挟まれ、秩父山地の中で秩父盆地より東の山地である外秩父山地から半島状に長く突き出した丘陵である。丘陵の東縁には二つの段丘面が形成されている。高い方の段丘面Ⅰは最終間水期に形成された面、低い方の段丘面Ⅱは最終間水期前期に形成された面である。

東側に広がる低地帯は、砂やシルトが堆積して微高地となっている自然堤防と後背湿地とに区分される。これらの微地形は、主に江戸時代以降に繰り返し起きた洪水による地形である。現在の荒川の流路は、江戸時代に人工的に作られたことが知られている。荒川は大里町の町界となる河川であるが、寛永六年（1629）に関東郡代伊奈備前守忠治の命により、熊谷市久下で元荒川を締め切り、和田吉野川につなぐ新川の開削をおこない、入間川に合流させて現在の荒川の本流を形成した。このため、江戸時代の河川改修以前の生活史を残す遺構面は、江戸時代以降の新たな荒川本流に起こった洪水の土砂の堆積によ



第2図 埼玉県の地形



大矢雅彦・高山一・久保純子・応用地質株式会社 1996
『荒川流域地形分類図』（建設省関東地方建設局荒川上流工事事務所）を改変

第3図 下田町遺跡の周辺地形

って地中深くに埋没することとなった。本遺跡所在地の現地表面は18.7m、遺構確認面は16.7mであり、このようにして埋没した遺跡の一つである。

遺跡は、和吉野川左岸の自然堤防上に立地しており、河川環境にも恵まれた土地である。古代の和吉野川は、西方の寄居町を水源として、比企丘陵の北側を東へ流れる吉野川と和田川が大里町下恩田地区で合流し、さらに下流で入間川と合流し、東京湾に注ぐ主要河川である。

また、遺跡の南側には、「津」という字の付いた地名が見られる。河川が近く、水上交通の拠点としての機能を持つ土地につけられることがあることから、下田町遺跡の所在地名にある津田という大字は、この地が和吉野川の河川交通の要衝であったことをうかがわせる。調査の結果、下田町第2次調査の第80号溝跡からは、海水産のカキ、ハマグリ、アサリ

などが大量に廃棄された状態で出土した。これらの貝類は、船で東京湾から運ばれたものと考えられ、河川交通が盛んであったことを物語る。

この他、本河川の北側には大宮台地の東側を古代の主要河川である元荒川が位置し、さらに東側には、古利根川が位置する。これらの河川に加え、中小の河川をも含めた河川交通網が作られていたと考えられる。「埼玉の津」と万葉集に読まれた場所として指摘される行田市築道下遺跡は元荒川の河岸のような機能が考えられる。このほか、河川の流域には古墳時代に多くの遺跡が形成される。

2 歴史的環境

下田町遺跡は、縄文時代後期、弥生時代中期後半、後期末～古墳時代前期、古墳時代中期、後期、奈良・平安時代、鎌倉・室町時代の各時代の遺構・遺物が検出された。周辺でこれまでに確認されている遺跡および各時代の歴史的環境の概要については、既に「下田町遺跡Ⅰ・Ⅱ」において記載した。ここでは、今回報告する第4次調査と第5次調査において検出された遺構・遺物の属する時期に絞り、周辺遺跡および歴史的環境について触れることにする。

下田町遺跡で、縄文時代の遺構は検出されていないが、縄文時代後期の土器片がわずかに出土している。周辺に縄文時代の活動域が存在していたことをうかがわせる。縄文時代後期は、全体的に遺跡数の減少傾向と規模の縮小傾向がみられる時期であるが、一方で、沖積地でも遺跡の検出例が知られるようになる。下田町遺跡の周辺では、台地上の桜谷遺跡で堀之内1式期の住居跡と土壌が検出されているほか、桜谷東遺跡や東山遺跡でも住居跡と土壌がみつまっている。これら台地の遺跡だけではなく、自然堤防

上に立地する成願遺跡でも、遺構こそ検出されなかったものの、縄文時代後期の深鉢が出土し、沖積地での当時の活動の展開がみられる。

下田町遺跡で次に人々の活動の痕跡が確認されるのは、弥生時代中期後半になってからである。比企丘陵では、櫛状工具により施文された波状文や櫛描文をもつ岩壘式土器と縄文を施文文様とする吉ヶ谷式土器が存在する。本遺跡では、両者の出土を住居跡や方形周溝墓から見られるものの明瞭な共存関係をつかめる資料はない。周辺にみられる該期の遺跡は、西南西の台地上に立地する船木遺跡で、方形周溝墓が検出されている。このほか、船木遺跡に隣接し、一段階古い中期中葉の壺形土器が出土している円山遺跡がある。近隣地域では、東方で自然堤防上に立地する袋・台遺跡が知られ、該期の住居跡が検出されている。7kmほど北側の荒川扇状地扇端部は、弥生時代中期から後期にかけての遺跡が集中する地域で、中期中葉の池上・小敷田遺跡、中期後半から末にかけての北島遺跡、前中西遺跡、諏訪木遺跡など複数の遺跡で遺構および遺物が出土している。

下田町遺跡でも確認されている方形周溝墓は、西日本から稲作農耕を伴って伝播した弥生文化の一要素であり、埼玉県域ではその分布から、関東地方南部に達した後、荒川を遡上して広がったものと考えられている。注目されるのは、下田町遺跡での検出例が、荒川扇状地扇端部を除く低地部で方形周溝墓が検出された初めての例であり、低地部への進出は荒川扇状地扇端部だけではないことが示されたことである。周辺の低地部にも弥生時代の遺跡が埋没している可能性があり、今後の調査が期待される。

弥生時代後期から古墳時代前期にかけての周辺地域では、比企丘陵などに分布する櫛描文を主体とする櫛描文系土器と、県北部などに分布する縄文施文を主体とする吉ヶ谷式土器の両者の土器がみられる。遺跡数の増加もみられ、比企丘陵や県北部との交流が活発であったことがうかがえる。周辺では、桜谷遺跡、大境遺跡、船木遺跡、円山遺跡、箕輪遺跡、

北郷遺跡、東松山市玉太岡遺跡など低地を望む台地上の遺跡と、成願遺跡など低地の自然堤防上の集落遺跡がある。成願遺跡や下田町遺跡のような低地に立地する集落は、近年の調査によって明らかにされたものである。両遺跡では、遺物にも共通性がみられ、関係が注目される。また、これらの低地部の集落と台地の集落との関係についても今後の調査研究で注目されることである。稲作農耕を基盤とした社会の発展に必要な低地開発が継続して進められていたと考えられる。

古墳時代前期には、東松山市五領遺跡のように住居跡100軒以上から成る大規模集落が形成されるようになる。遺物には、東海地方など各地域の影響が土器などにみられるようになり、周辺各地との交流もさらに盛んなものとなる。全国的には古墳の造営が始まる時期だが、下田町遺跡周辺では、墓制は依然として方形周溝墓が営まれている。遺跡周辺では、楓山西遺跡、大境遺跡、大境南遺跡、大林南遺跡、玉太岡遺跡、箕輪遺跡、船木遺跡などで中・小規模の集落が確認されている。

古墳時代後期になると周辺に古墳が築造される。東松山市青山古墳は、全長90mの円墳で、円墳としては埼玉古墳群の丸墓山古墳に次ぐ大きさをもち全国屈指の規模である。墳丘からは埴輪片が採掘され6世紀前半の築造とされている。また、とうかん山古墳は、全長74mの前方後円墳で、墳丘から採掘された埴輪や土器片から6世紀中葉前後とされている。とうかん山古墳は、隣接する箕輪遺跡や五反林遺跡などの古墳を含め古墳群を形成している。このほか、円山古墳群、阿諏訪野古墳群、東山古墳群、楓山古墳群、賢木丘古墳群などが所在し、いずれも6世紀以降の後期古墳群である。

古墳時代後期の集落は、沖積地に積極的に進出する。下田町遺跡ではこれまでに79軒の堅穴住居跡、38棟の掘立建物跡を検出した。また、集落域の北側は大規模な溝を掘削し、灌漑・治水事業を積極的に行ったと考えられる。和田吉野川を挟んだ対岸の



第4図 周辺の遺跡

成願遺跡は、自然堤防上に形成された集落で住居跡58軒、掘立柱建物跡21棟を検出した。

下田町遺跡のように低地を居住空間とした集落の特徴は、治水事業を伴う集落形成であったと理解する。このため、集落内には、用排水機能を備えた多くの溝跡を掘削している。

この他、出土遺物で、特に、滑石製品が多く出土していることが注意される。また、未製品の剥片や原石に近い素材が多く出土している。

下田町遺跡全体では石製模造品を图示したもののだけでも176点検出している。この他、石製紡錘車の未製品を5点検出した。近接する熊谷市船木台遺跡でも勾玉、石製模造品、原石剥片が出土し、やはり紡錘車の未製品が出土している。和泉期の第11号住居跡は工房跡と考えられている。

この他県内では、滑川町月の輪神社西遺跡、東松山市駒橋遺跡、吉見町田甲原遺跡（註）などで紡錘車の未製品が出土している。

また、藤岡市西平井に位置する竹沼遺跡では、古墳時代後期の製作工房跡9軒を調査し、使用石材は

第1表 周辺遺跡一覧表

1	下田町遺跡	28	曹山古墳
2	玉太岡遺跡	29	東山古墳
3	北郭遺跡	30	庚塚古墳
4	中郭遺跡	31	田甲原古墳
5	吉ヶ谷遺跡	32	黒岩横穴群
6	船木遺跡	33	茶白山古墳
7	円山遺跡	34	神代古墳
8	桜谷遺跡	35	横見神社古墳
9	北谷南遺跡	36	御所古墳群
10	中山遺跡	37	岩鼻古墳群
11	田甲原遺跡	38	三塚古墳群
12	岩鼻遺跡	39	かぶと塚古墳
13	八幡遺跡	40	山の上3号墳
14	福荷前遺跡	41	山の上2号墳
15	丸山遺跡	42	山の上1号墳
16	和名遺跡	43	福荷塚古墳
17	山の上遺跡	44	吉見百穴横穴群
18	久米田遺跡	45	羽黒山古墳
19	観音寺遺跡	46	青鳥古墳群
20	種子山遺跡	47	岩塚古墳
21	五領遺跡	48	若宮八幡古墳
22	香清水遺跡	49	附川古墳群
23	三千塚古墳	50	柏崎古墳群
24	雷電山古墳	51	野木將軍塚古墳
25	秋葉塚	52	おくま山古墳
26	とうかん山古墳	53	大谷瓦葺跡
27	嵐山古墳	54	和名輪軸跡群

滑石で、製作主体は白玉、紡錘車、管玉、剣形品などである。1号住居跡からは白玉と紡錘車の製作工程をおえる資料が出土し、滑石の荒割り、形割り、研磨、穿孔段階の未製品が出土している。石製紡錘車の未製品は、群馬県高崎市並榎台原遺跡、田端遺跡から出土し、茨城県稲敷郡阿見東遺跡や結城市善長寺遺跡、新潟県糸魚川市田伏遺跡でも検出されている。また、福島県安達郡本宮町百目木遺跡からは住居跡の床面から製作途中の紡錘車が17点まとまって検出している。この他、いわき市タカラ山遺跡では、紡錘車の未製品のほか、滑石片が住居跡内から10.7kg出土した。

奈良・平安時代になると、律令体制の機構のもと下田町遺跡は大里郡に帰属する。大里郡は、郡家郷、市田郷、楊井郷、余戸郷の4郷からなる小郡である。

周辺には、堅穴住居跡300件以上を検出した北鳥遺跡や出拳木簡を出土した小敷田遺跡などが位置する。このほか、諏訪木遺跡、池上遺跡、一本木前遺跡などの集落跡が存在し、古墳時代後期以降この地域は継続的に集落が形成されている。

下田町遺跡の奈良時代の第319号井戸跡からは黒漆塗壺を出土した。壺蓋を出土した遺跡には、大阪府大阪市四天王寺境内遺跡、新潟県柏崎市箕輪遺跡、福岡県北九州市石田遺跡がありいずれも奈良時代末の時期である。形態的特長は、奈良時代の伝世品と考えられる法隆寺献納宝物や東大寺正倉院に納められている鉄製黒漆塗りの馬具に見られる。

次に、平安時代の漆付着の容器である。検出点数は須恵器坏・高台付壺6点、須恵器壺1点である。漆付着土器の出土位置を検討するとその分布は、西区の北側から中央付近にかけて見られる。検出した遺構は、井戸跡及び溝跡である。特に、第286号溝跡出土の須恵器坏は刷毛の痕跡が見られる。また、第222号井戸跡からは3点の漆付着の須恵器高台付壺が出土している。このほか、表探資料ではあるが須恵器長頸瓶の口縁部破片の内面には漆が全体に付着し漆容器と考えられる。

漆の付着する容器は奈良・平安時代に多く見られる。この時代の漆は、漆採集に使用した容器なのか、下田町遺跡出土の木製黒漆塗壺や第2号井戸跡出土の木製黒漆塗鞍など、漆製品の生産にかかわる遺跡であったのか、生活の中で容器として使用していたのか様々な可能性が指摘できる。

漆壺が検出された遺跡には、行田市築道下遺跡、熊谷市北島遺跡、さいたま市根切遺跡が知られる。

また、平安時代の遺跡からは土師器・須恵器の坏や埴輪が主に出土し、熊谷市北島遺跡、行田市築道下遺跡、鴻巣市新屋敷遺跡、上里町中堀遺跡が知られる。

漆を土器の表面に塗った漆塗り土器が使われていたと考えられ、平安時代も9世紀後半になると土器は、須恵器、土師器の食器セットが、焼成温度の低い軟質の須恵器、内面黒色処理された黒色土器、わずかに検出される土師器、灰釉陶器、緑釉陶器などの食器セットへと変化すると考えられる。この中に漆塗り土器が存在したことになるだろう。

さらに貴重な行政文書として、平安時代の大里郡を記録した「武蔵国大里郡坪付」とよばれる文書が残されている。この文書は、九条家本「延喜式」の裏文書の中に記され大里郡印が押されている。大里郡の役所の下で条里制が施行され、各坪単位に田畑の面積を把握し、記載されていたことがわかる。記

された地域がどこの地域の条里地割に比定できるのか注目される。本遺跡の調査は、平安時代の東西・南北方向の溝跡を検出でき条里の坪付け畦畔を推定する上で貴重な成果である。また、集落域にまで坪並みの区画が見られるとすれば注意され、下田町遺跡が低地に展開していることに要因があると考えられる。

鎌倉・室町時代には、幅2～3m、深さ1～2mの溝跡が見られる。この溝跡は二条が南北方向に平行して伸び、さらに東西方向に分岐して伸びる。屋敷地の区画を意味させる堀割りと考えられるが、この遺構が防衛的機能を持つのか、あるいは、通運などの機能があったのか検討する必要がある。このほか、井戸跡や火葬土坑の遺構も確認でき中世の屋敷跡が存在していたものと考えられる。

県内には、中条館跡、河越館跡、真鏡寺館、ミカド遺跡などの中世館が知られておりこれらの構造とも溝跡の区画などは大きく異なるあり方であり、検討する必要がある。また、中国製の緑釉壺が検出された。東国の館では三彩の壺または洗が出土し、河越館跡、阿保氏館、大久保山遺跡などから出土している。白磁四耳壺、青磁梅瓶とセットで出土することが多く貴重な遺物である。

下田町遺跡における中世については、比企氏や大車氏など武蔵武士の活躍と合わせ注目される。

引用・参考文献

- 高崎光司 1990 「玉太岡遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第90集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 増田逸朗 1993 「古墳時代の祭祀」埼玉県の祭祀遺跡 東日本埋蔵文化財研究会
- 赤熊浩一・岡本健一 2004 「下田町遺跡Ⅰ」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第296集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 赤熊浩一・松岡有希子 2005 「下田町遺跡Ⅱ」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第301集 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 塩野博 2005 「埼玉の古墳」大里 さきたま出版会
- 埋蔵文化財研究会2005 「古墳時代の滑石製品」
- 瀧瀬芳之 2005 「奈良時代の密鏡が出土した大里町下田町遺跡について」『武蔵野』第81巻第1号武蔵野文化協会

註 太田賢一氏の御教示による。

Ⅲ 遺跡の概要

下田町遺跡は、大里村（現熊谷市）遺跡調査会によって平成12年1～2月に第1次調査が実施された。調査面積は487㎡で、弥生時代の土坑墓1基、古墳時代の竪穴住居跡1軒、掘立柱建物跡4棟、平安時代の土坑6基、溝跡3条が検出された。弥生時代の土坑墓から鉄剣が出土し、本遺跡は注目されることとなった。

当事業団は国土交通省から委託を受け、平成13～16年度の4ヶ年にわたり調査を実施した。第2～5次調査にあたり、調査総面積は40,300㎡である。遺跡の東半を南北に大きくトレンチを入れた恰好となり、弥生時代から中世にかけての大規模な集落跡が検出された。本書で報告するのは、第4次調査の東区と第5次調査の範囲である。荒川の高規格堤防建設に伴って行われた大規模調査は、本書をもって完結となる。

検出された遺構は、方形周溝墓8基、竪穴住居跡98軒、掘立柱建物跡3棟、円形周溝状遺構1基、竪穴状不明遺構2基、焼土跡1基、井戸跡36基、土坑

140基、溝跡159条、道路状遺構1条、ピット1,601基であった。また、第5次調査の中央には谷部が検出され、大量の遺物が出土した。この谷部により、自然堤防が北と南に大きく分断されていた。北側と南側で検出された集落像は、各時期により様相が異なる。

方形周溝墓は、8基全てが古墳時代前期に築造されたもので、調査区北半部で検出された。平面形態別でみると、周溝が全周するもの3基（第12・17・18号方形周溝墓）、四隅が切れるもの2基（第15・16号方形周溝墓）、一辺の中央に陸橋部をもつもの1基（第14号方形周溝墓）、前方後方型が1基（第11号方形周溝墓）、不明のもの1基（第19号方形周溝墓）である。第12号方形周溝墓は、本遺跡最大の規模をもち、高さ約80cmのマウンドが残存していた。マウンド上から土坑が検出されたが、奈良時代以降の遺構である可能性が高い。方形周溝墓同士の明確な重複は認められなかったが、第11・13号周溝墓は周溝を共有していた可能性も考えられている。また、第17号周溝墓は、近接する第16・18号周溝墓を避けて築

第2表 下田町遺跡調査概要

	面積 ㎡	平成 13年度	平成 14年度	平成 15年度	平成 16年度	平成 17年度	集 時 代	方 形 周溝墓	竪 穴 住居跡	掘立柱 建物跡	井戸跡	土坑	溝跡	その他
第2次 調査 整理・報 告書作成	14,100	6/1	3/22				弥生中期 古墳前期 古墳後期 ～中世	4	58	27	131	155	264	火葬土坑3 不明遺構2
			西区4/8		3/24		296							
				東区1/5		3/24	301							
第3次 調査 整理・報 告書作成	8,700	5/10		3/24			弥生中期 古墳前期 ～中世	6	37	17	171	355	301	円形周溝状 遺構2 火葬土坑27 道路状遺構 2
				4/8		3/24	301							
第4次 調査 整理・報 告書作成	9,000		4/8		3/24		古墳前期 ～中世	3	215	3	96	118	142	掘列2 火葬土坑6 円形周溝状 遺構1
					7/1	3/24	319 西区 320 東区							
第5次 調査 整理・報 告書作成	8,500			4/8		3/24	古墳前期 ～中世	6	93	2	25	117	91	不明遺構4 道路状遺構 1
					7/1	3/24	320							
合 計	40,300							19	403	49	423	745	798	

※遺構の総数は、各年度の検出数を合計したものである。そのため、同一の遺構が調査区を挟んで検出された場合、二重にカウントされているものが含まれている。なお、第2～5次調査で検出した全遺構の索引を第2分冊巻末に付した。

造されていたため、周溝に歪みが認められた。

住居跡は、古墳時代前期から平安時代にかけてのものが検出された。古墳時代後期のものが主体で、重複が著しく、調査は困難を極めた。古墳時代前期の住居跡は、調査区北半部で1軒、南半部で10軒が検出された。北半部で検出された住居跡は、第4次調査で検出された集落の東端にあたり、東側には方形周溝墓群が展開していた。このことから、本集落は墓域と集落域が明確に分かれていたことがわかる。古墳時代中期の住居跡は調査区の北東際で1軒のみが検出された。下田町遺跡では当該期の遺構は大幅に減少する傾向が認められ、今回の調査区でも本遺構のみである。古墳時代後期になると、住居跡の軒数は爆発的に増加する。北半部の住居跡群中には、建て替え・拡張されたものが5軒認められた。奈良・平安時代の住居跡は、全て調査区北半部で検出され、南半部では検出されていない。本遺跡のこれまでの調査成果をみると、当該期の遺構は主に遺跡の北側に分布しており、南に下がるにつれ分布が希薄になる。

掘立柱建物跡は、調査区北半部で2棟、南半部で1棟が検出された。時期を特定することができなかったが、北半部のものは奈良～平安時代と考えられる。南半部のものは中世の可能性も考えられる。中世の遺構面は、今回調査を行った確認面より上層にあり、数棟の建物跡が存在していた可能性が高い。

円形周溝状遺構は、本遺跡では4例目となるもので、奈良時代の第325号住居跡を壊していた。これまで検出されたものは古墳時代後期とされているが、遺構の時期や性格については不明な点が多い。

堅穴状不明遺構も検出例としては4基目である。遺物が多量に出土することから、古墳時代後期という時期を特定できるが、形状について規則性は認められず、性格がそれぞれ異なることが考えられる。

焼土跡は、調査区南半部の谷部際に単独で検出され、住居跡の炉跡であった可能性も考えられる。

井戸跡は、古墳時代後期～平安時代のものは少なく、多くは中世のものであった。これまでの調査成

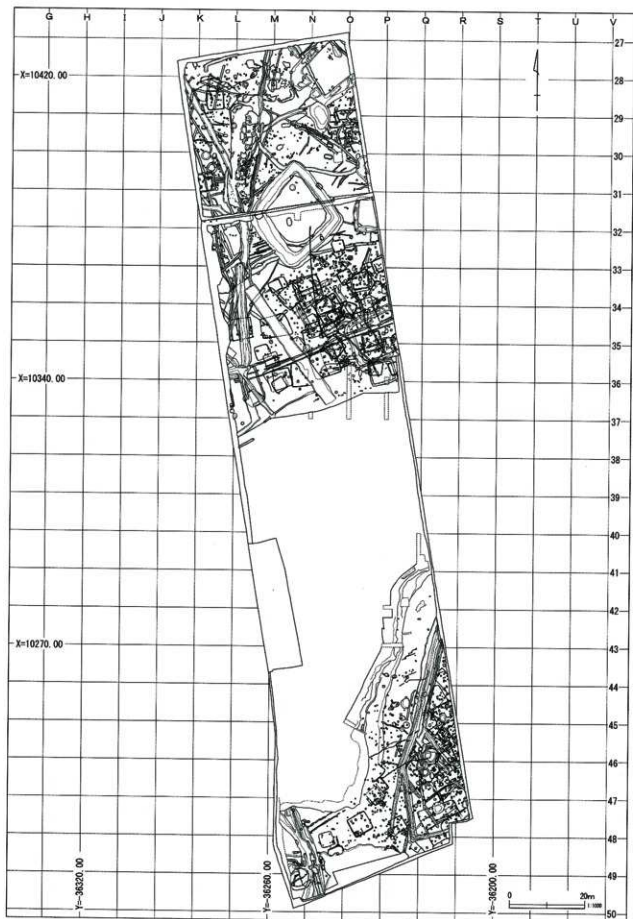
果から、直径1m前後のものは平安時代まで、中世になると直径2m以上の大型になることがわかっている。井戸跡は、素掘りのものが多くみられ、第397・421号井戸跡で木組みの井戸枠が、第390・419・420号井戸跡では曲物が検出されている。第422号井戸跡からは、硯に転用された灰軸陶器の高台付境が出土している。

土坑は、出土遺物が少ないため、時期を特定できたものは少なかったが、多くは古墳時代後期から平安時代のものと思われる。調査区北部で検出された第675・678・683号土坑は、主軸方位をほぼ同じくし、壁面下部が被熱を受け、底面に炭化物や灰が堆積していた。形態は長方形を呈し、長軸は2m前後とほぼ同じ形状をしていた。土師器焼成土坑と考えられ、第683号土坑から出土した丸底の土師器壺から、時期は奈良時代と考えられる。

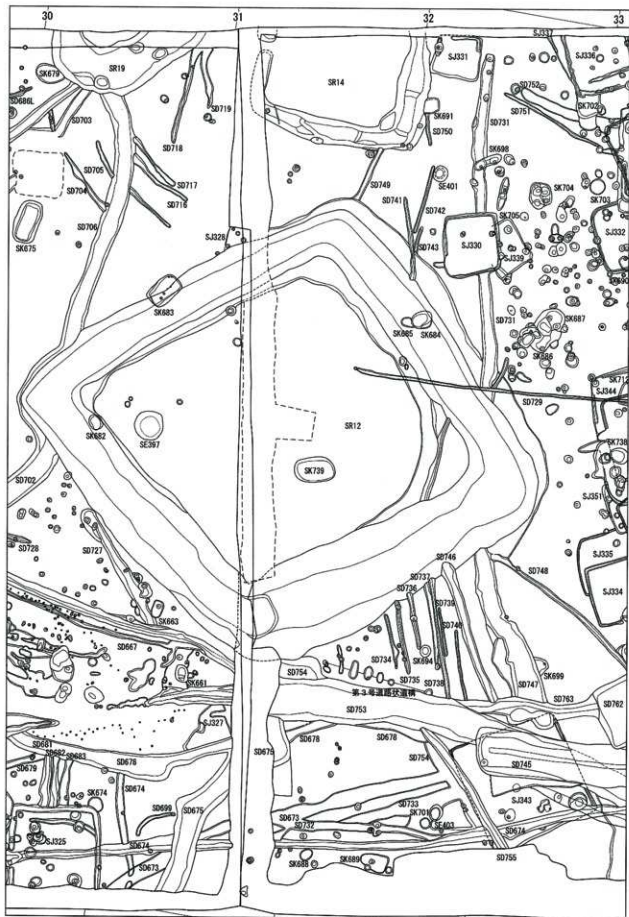
溝跡は、古墳時代後期から中世のものが多数検出された。自然堤防を縦断するような南北方向に走行するものが目立つ。古墳時代後期末の第762号溝跡は、幅広で谷部へと連結しており、水路の機能あるいは船着場の機能をもっていた可能性がある。中世の大溝である第745・789号溝跡は、直線的に延びる区画溝で、それぞれ集落の西限、東限を示している。

道路状遺構は、第5次調査区の北端で検出された。波板状の痕跡と考えられる小ビットが連続しており、第3次調査で検出された第1・2号道路状遺構が延長線上に検出されていることから、道路跡として判断した。ほぼ同時期の溝跡が南北方向に走行するが、本遺構に伴う側溝は検出されていない。第4次調査で検出された第680号溝跡は、掘り方の可能性がある。

谷部南側の調査では、古墳時代前期から平安時代の遺物が大量に出土した。多量の滑石製模造品とともに紡錘車の未製品が2点出土しており、水辺での祭祀が行われた可能性もある。また、古墳時代前期・後期、平安時代の各時期の遺物出土地点が異なる傾向が認められた。中位から浅間Bテフラが検出されている。



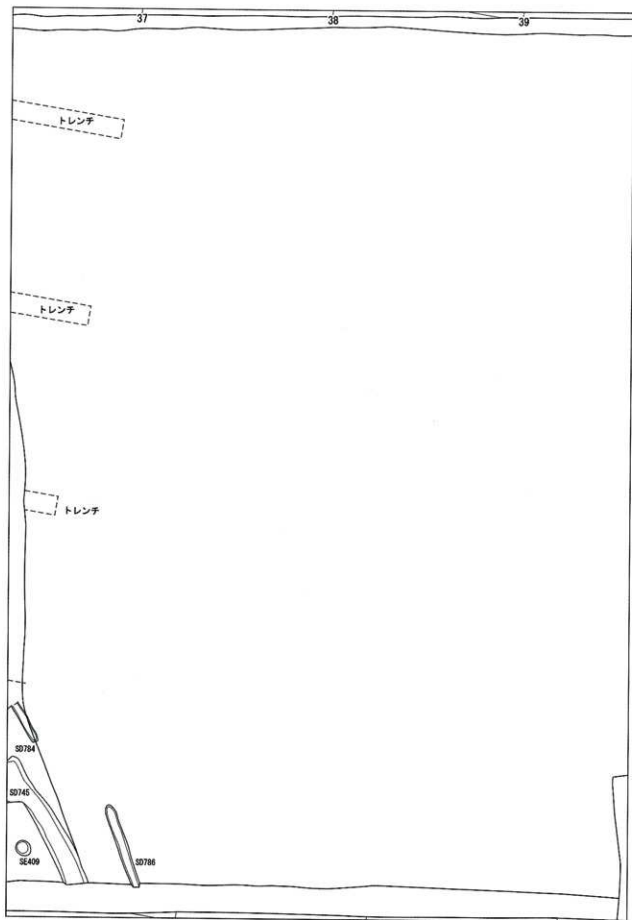
第 6 図 発掘調査区グリッド配置図



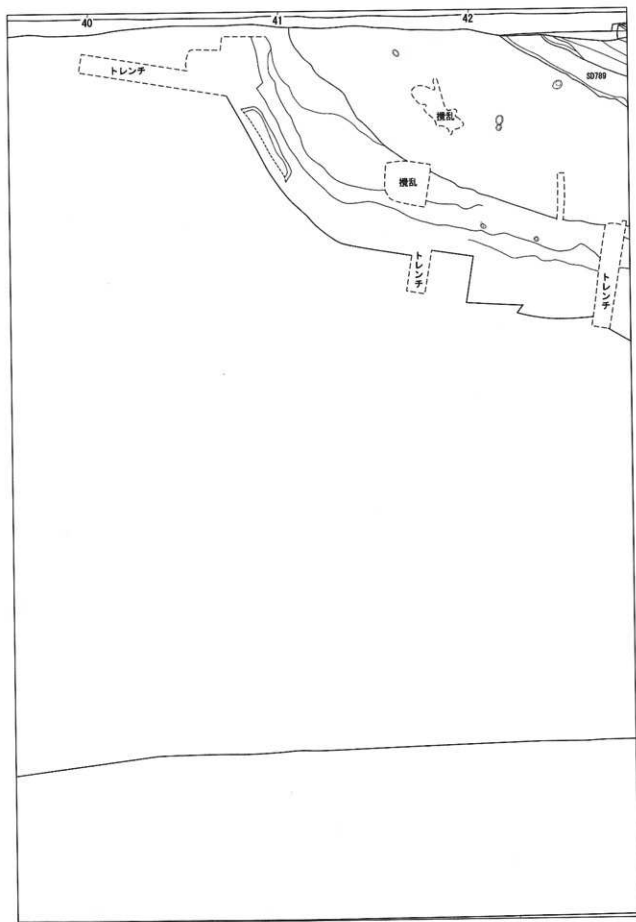
第 8 图 調查区全体图 (2)



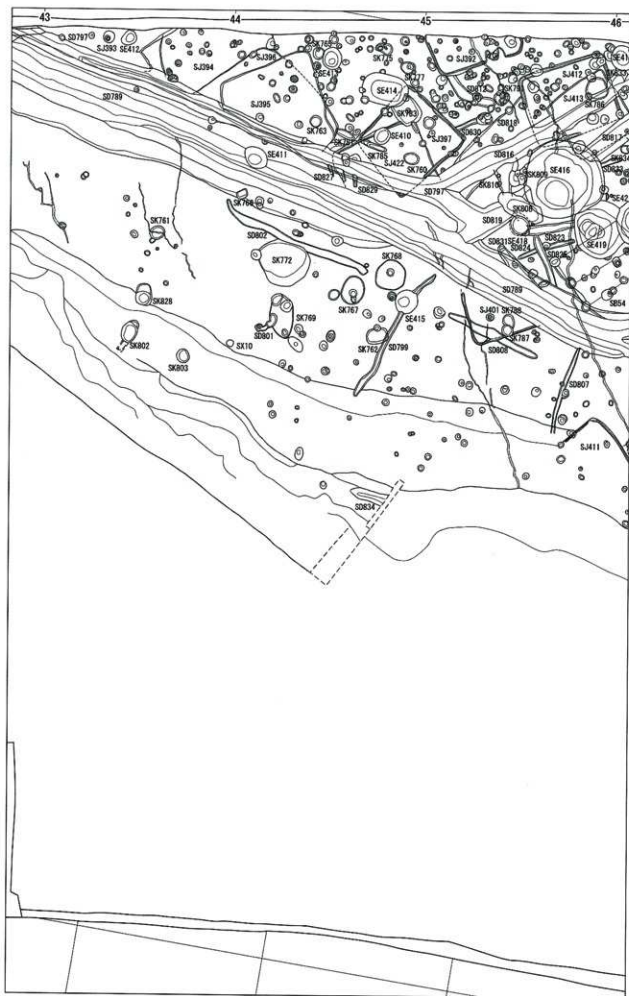
第9图 调查区全体图(3)



第10図 調査区全体図 (4)



第11図 調査区全体図 (5)



第12图 調査区全体图 (6)



第13図 調査区全体図 (7)



第14図 方形周溝墓全体図

IV 遺構と遺物

1. 方形周溝墓

今回の調査区内では、方形周溝墓が8基検出された。平面形態は、全周するタイプが3基（第12・17・18号方形周溝墓）、四隅が切れるタイプのものが2基（第15・16号方形周溝墓）、一辺の中央に陸橋部をもつタイプが1基（第14号方形周溝墓）、前方後方型が1基（第11号方形周溝墓）、全容が不明のもの1基（第19号方形周溝墓）であった。平面形態により、時期差が認められる。四隅が切れるタイプのものが弥生時代中期末から後期末にかけて築造される。それに代わって、古墳時代前期になると周溝が全周するタイプのものが築造されるようになる。

第17号方形周溝墓と第18号方形周溝墓の周溝が僅かながら切り合っていたが、方形周溝墓どうしでの大きな重複は認められなかった。第17号方形周溝墓の南北の周溝の形状をみると、先に築造された第16・18号方形周溝墓の周溝を避けて、その部分の周溝の幅を狭くしていることがわかる。遺跡内には何箇所かの谷が入り込み、標高がやや低い自然地形の外縁部分に順次構築されていったものと考えられる。

方形周溝墓が位置する谷部北側の自然堤防上には、同時期の集落跡が確認されているが、本調査区において住居跡は1軒しか検出されなかった。調査区の北西寄りでは検出された第343号住居跡が集落域の西限となり、墓域が東に大きく広がるのが今回の調査で判明した。墓域は東側にまだ続く可能性は高い。

遺構の分布としては、群集した様相はみられず、単独あるいは2～3基程度の小さい群を成していた。

第12号方形周溝墓は一辺が13～14mと本遺跡最大のもので、方台部に低墳丘ながらマウンドが残存していた。第11号方形周溝墓は、前方後方型を呈するもので、第13号方形周溝墓と周溝を共有していた可能性がある。

谷部南側では古墳時代前期の集落が検出されたが、今回の調査区から方形周溝墓は検出されていない。

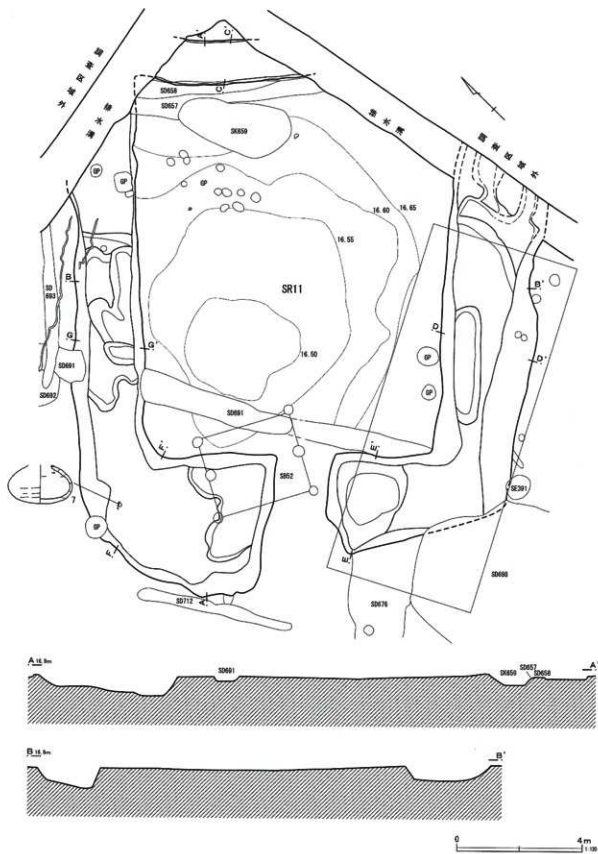
第11号方形周溝墓（第15～17図）

M-O-27・28グリッドにかけて検出された。北側と東側は調査区域外に延びていたため、全体を調査することができなかった。また、調査開始前に掘削した排水溝により周溝の一部が壊されていた。第52号掘立柱建物跡、第391号井戸跡、第657・658・676・691・698号溝跡と重複していた。新旧関係は、重複する全ての遺構の中で、本遺構が一番古かった。調査当初は遺構の重複があったため、方形周溝墓と認識できず、各周溝に個別の溝番号を付して調査を行った。調査時の旧番号は、東溝がSD665、西溝がSD700、北溝がSD701である。

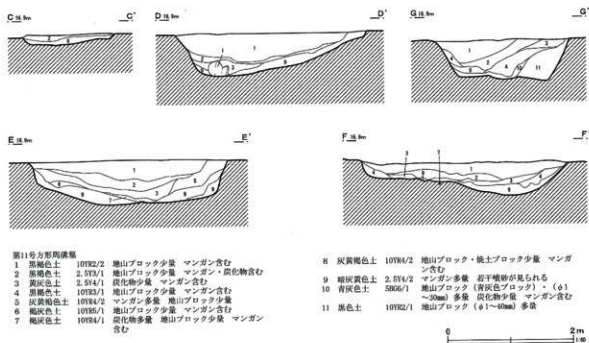
第3次調査で検出された第13号方形周溝墓が、調査区を挟んだ北側に本周溝墓と接するように位置していた。第13号方形周溝墓は、調査区域外に大きく延びており、周溝の一部が検出されたにすぎない。周溝の形態や出土土器などから方形周溝墓の可能性が高いと判断されているが、本周溝墓と周溝が重複する形となり、方形周溝墓ではない可能性も考えられる。また、方形周溝墓であった場合は、本遺構の北溝と周溝を共有していたと考えられる。

検出された範囲での規模は、南北17.39m、東西14.47mであった。平面形態は長軸方向である南北に長い長方形で、南溝の中央部に陸橋部をもつ前方後方型の周溝墓であった。長軸方向は、N-45°-Eであった。

周溝の規模は、北溝が幅1.34～1.42m、深さが0.05～0.09mであった。東西の周溝と比べ、形状があまりにも異なるため、本周溝墓に伴うものではない可能性も考えられる。前述したように、第13号方形周溝墓と周溝を共有していたとしたら、なおさらこの溝の規模では疑問が残る。第13号方形周溝墓の溝と西溝の走行方向がほぼ一致することから、同一の遺構である可能性も考えられる。その場合は、規模が南



第15图 第11号方形周清墓 (1)



第16図 第11号方形周溝墓 (2)

北約25m、東西約15mの大型の方形周溝墓となる。現段階では、本周溝墓の北側については不明な点が多く、判断が難しい。北溝からは、遺物がほとんど出土していないこともあり、本周溝墓の詳細は隣接地の調査結果を待つしかない。

東溝は、幅2.62~3.08m、深さが0.40~0.53mであった。北側は排水溝で壊されていたため、形状がはっきりしなかった。外側の壁の立ち上がりは、方台部側と比べ傾斜が緩やかで、下場のラインが不明瞭である。

西溝は、幅1.82~4.41m、深さが0.14~0.51mであった。周溝中央部に設けた土層観察用のベルトでは、方台部側からの堆積が顕著に認められた。

南溝は、幅2.68~4.30m、深さが0.32~0.52mで、中央部に陸橋部が設けられていた。陸橋部の幅は1.78~3.15mで、東側の辺の長さが3.17m、西側の長さが4.30mであった。東西の周溝が非対称で、方台部側の幅が狭くなる形態をしていた。陸橋部の東西の立ち上がり部分には、土坑状の掘り込みが検出された。

周溝内からは、溝中土坑の可能性が考えられる掘

り込みが東溝で1基、南溝で2基の計3基が検出された。西溝中央部にも不整形の落ち込みが検出されている。土層断面をみると、周溝の埋没過程において周溝を掘り直したのではなく、方形周溝構築当初から存在していたことがわかる。

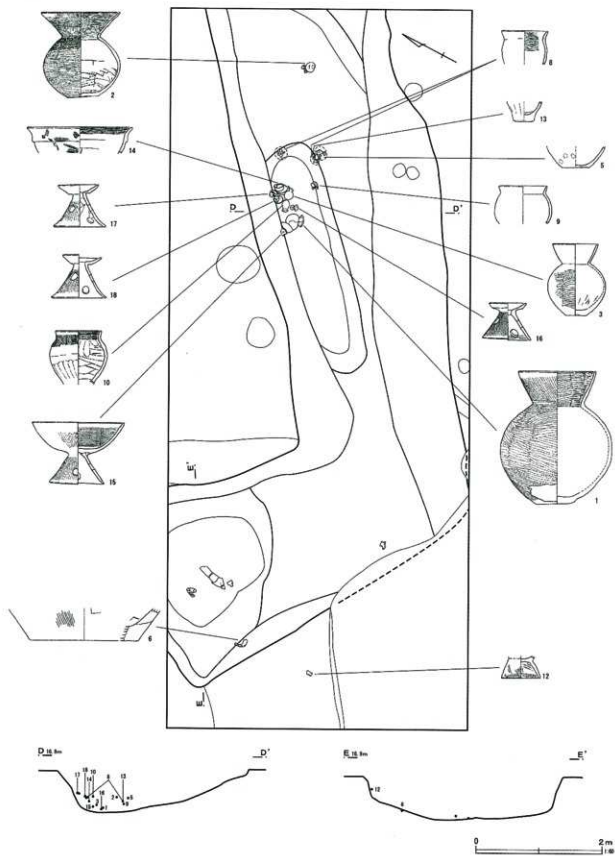
東溝中央部で検出された落ち込みは、底面からの深さが11cmで、南北に長い楕円形をしていた。第17図に示したように多量の遺物が出土していることから、二次的な祭祀行為が行われた可能性が高い。

陸橋部東の落ち込みは、底面からの深さが13cmで、平面形態は楕円形をしていた。大型壺の底部片などが少量出土している。陸橋部西の落ち込みは、底面からの深さが11cmで、平面形態は不整形をしていた。

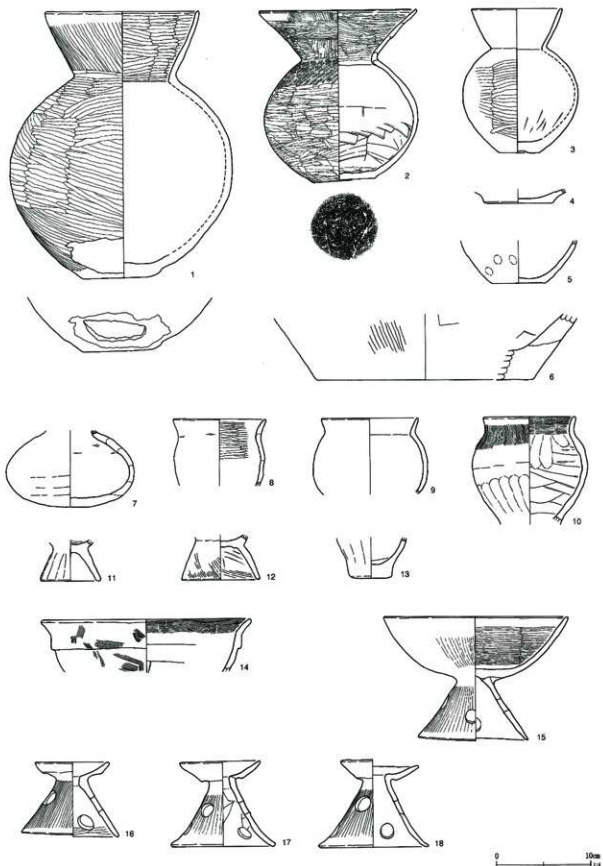
遺物はほとんど出土しなかった。

方台部は、南北11.60m、東西9.67mで、南北に長い長方形であった。方台部上には、15cmほどの高まりが検出された。マウンドの名残である可能性が考えられる。ただ、埋葬施設は確認することができなかった。

遺物は、東溝中央部の土坑状の落ち込みからま



第17图 第11号方形周满墓遗物出土状况



第18图 第11号方形周满墓出土遗物

まって出土している。落ち込みの北側に集中し、完形の土器が多くみられる。内訳は、壺3、小型甕4、鉢1、高坏1、器台が3点である。大型の壺は焼成後に穿孔されていた。東に1mの地点からは赤彩された完形の二重口縁壺が出土している。陸橋部東の落ち込みからは大型壺の破片などが少量出土したが、復元できたものは僅かであった。

出土遺物は、第18図に示した。4・7が西溝で、それ以外の遺物は全て東溝からの出土である。1は、胴部下半を意図的に打ち欠いた完形の壺である。穿孔は焼成後に行われている。外面と口縁部内面に赤彩が施される。胴部内面は、観察ができないため調整が不明である。2は二重口縁の壺で、肩部に単節LR縄文が施文される。外面と口縁部内面はヘラミガキ調整で、赤彩が施される。口縁部と頸部の境には、長さ1cm弱の棒状の浮文が3箇所貼付される。底面には僅かに木葉痕が認められる。3は完形の小型壺で、底部がドーナツ状に上げ底となっている。摩滅が著しく、調整は不明瞭である。4・5は、壺の底部片である。6は、大型壺の底部片である。7は外面に赤彩が施される壺で、調整は摩滅のため不明瞭である。8は、小型の甕である。内面は横方向のヘラミガキで、外面は摩滅のため調整が不明である。外面に黒斑が認められる。10は、小型の台付甕である。頸部外面にハケ目が残るが、胴部はナデ調整である。11は小型の台付甕の脚台部で、10と同一個体の可能性もある。胴部内面の調整はヘラミガキである。12は、台付甕の脚台部である。13は、小型平底甕の底部片である。14は、鉢と考えられる口縁部片である。外面にハケ目が部分的に認められる。15は、ほぼ完形の高坏である。位置がややずれた2個1組の円孔が2単位認められる。16~18は完形の器台で、15の高坏同様に脚部の円孔の位置が互い違いになっている。3点とも円孔は6箇所である。17・18は、外面と器受部内面に赤彩が施される。18は、器受部の歪みが著しい。

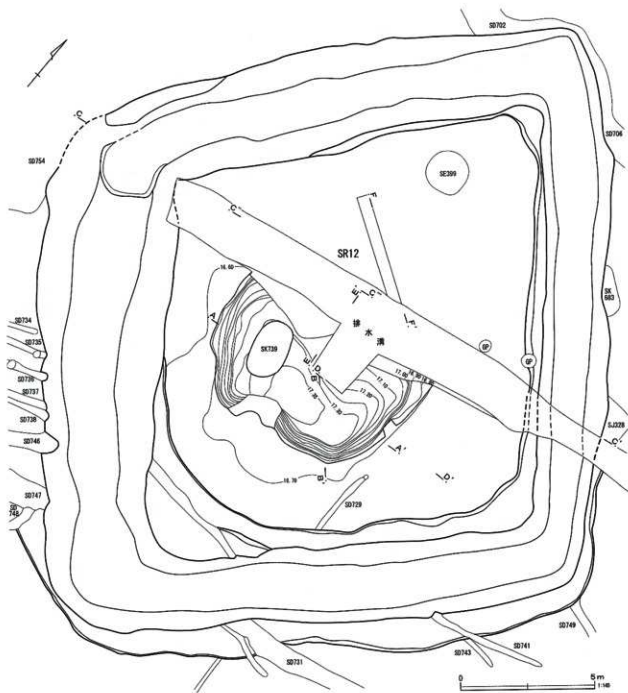
第12号方形周溝墓（第19~24・26・27図）

N-30~32、M-30~33、L-30~32グリッドにかけて検出された。本周溝墓は工事の関係上、年度をまたいで調査を行なわざるを得なかった。北半部は平成15年度の第4次調査、南半部は平成16年度の第5次調査で発掘を実施した。そのため、方台部の中央部分の一部を排水溝により十分な調査ができなかった。また、北半部については、表土を機械掘削する際にマウンドの存在が想定されていなかったため、方台部分を平坦に削平してしまっている。方台部には黄褐色のマウンドと思われる高まりが確認されているため、マウンドは方台部北側にも残存していたことがわかっている。

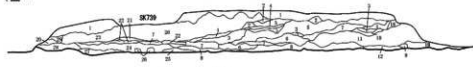
第328号住居跡、第397号井戸跡、第682~685・739号土坑、第702・706・729・731・734~738・741・743・746~749・754号溝跡と重複していた。新旧関係は、重複する全ての遺構の中で、本遺構が一番古かった。本遺構は、調査時には溝番号を付して調査を行った。調査時の旧番号は、SD724である。

規模は、南北22.12m、東西20.70mであった。平面形態は正方形に近いが、北東コーナー部がやや張り出した不整形をしていて、北東コーナー部がほぼ真北を指し、南北を軸に周溝墓をみると平面形態は菱形を呈している。長軸方向は、N-39°-Wであった。

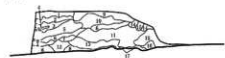
周溝は全周していた。各周溝の規模は、北溝が長さ18.94m、幅3.39~3.90m、深さが1.12~1.39mであった。南溝は長さ19.88m、幅2.29~2.81m、深さが1.06~1.36mであった。東溝は長さ20.29m、幅2.04~2.64m、深さが1.04~1.19mであった。西溝は長さ16.59m、幅3.48~4.78m、深さが1.07~1.35mであった。また北溝を除いた周溝の内外には浅い溝が検出されている。周溝壁面の立ち上がりは、外に比べ内の方台部側の傾斜が緩やかに立ち上がっていた。底面はほぼ平坦であった。土層断面をみると、方台部側からの堆積が顕著に認められないことから、マウンドの流失は少なかったと推測できる。



A.11 6m

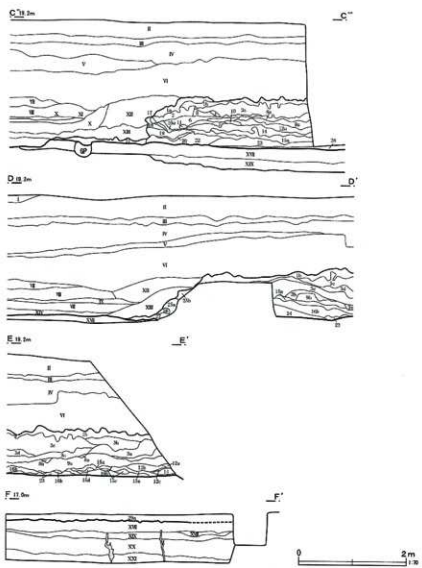
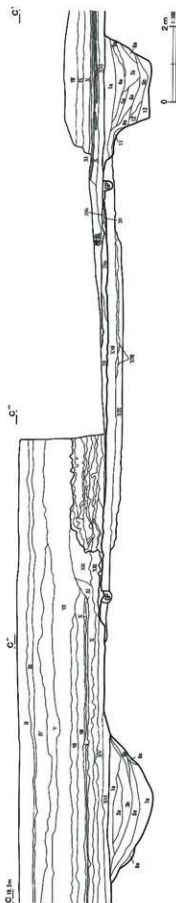


B.11 6m



0 5m 1:100

第19图 第12号方形圆锥墓 (1)



- 第12号方形周溝底 マウンド (A-A'・B-B')
- 1 にぶい黄褐色土 10YR5/3 ローム粒子 ($\phi 1\sim 2\text{mm}$) 含む シルト質 炭化物粒子 ($\phi 1\sim 5\text{mm}$) 微量 しまり・粘性やあり
 - 2 灰黄褐色土 10YR5/2 ローム粒子 ($\phi 1\sim 2\text{mm}$) 少量 シルト質 炭化物粒子 ($\phi 1\sim 5\text{mm}$) 微量 しまりあり 粘性やあり
 - 3 にぶい黄褐色土 10YR5/4 ロームブロックを主体とし2層土が充填する しまりあり 粘性やあり
 - 4 灰黄褐色土 10YR5/3 ロームブロックを主体とし2層土及び5層土が充填する しまり・粘性やあり
 - 5 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロック含む しまり・粘性あり
 - 6 にぶい黄褐色土 10YR5/4 ロームブロックを主体とし5層土が充填する しまりあり 粘性やあり
 - 7 黒褐色土 10YR3/1 ロームブロックを含む (5層よりも多い) しまり・粘性あり
 - 8 明黄褐色土 10YR6/6 ローム (明黄褐色でしまり強く固い) を主体とする 5層土粒子 ($\phi 1\sim 2\text{mm}$) 少量 しまりあり 粘性や強い
 - 9 灰黄褐色土 10YR4/2 ロームブロックを固に多量 シルト質 粘性・しまりやあり
 - 10 灰黄褐色土 10YR5/2 ロームブロック含む しまりあり 粘性やあり
 - 11 にぶい黄褐色土 10YR5/4 ロームブロックを主体とし10層土が充填する 黒褐色土が固に含まれる しまり・粘性あり
 - 12 明黄褐色土 10YR6/6 8層とはほぼ同じだが比較するとしまりにやや欠ける しまり・粘性あり
 - 13 にぶい黄褐色土 10YR5/4 11層とはほぼ同じだが他質の土の混入量が少ない しまり・粘性あり
 - 14 灰黄褐色土 10YR5/2 9層中にロームブロック多量 シルト質 しまり・粘性やあり
 - 15 褐色土 10YR4/1 ローム ($\phi 1\sim 10\text{mm}$) 混じり少量 しまり・粘性あり (微炭の混入土)
 - 16 褐色土 10YR4/1 ロームブロック ($\phi 5\sim 10\text{mm}$) 多量 しまり・粘性あり (層下の腐風土)
 - 17 明黄褐色土 10YR6/6 12層とはほぼ同じだが18層土の混入がみられる しまり・粘性あり
 - 18 明黄褐色土 10YR6/6 ロームブロックを主体とし5層土が充填する しまり・粘性あり
 - 19 明黄褐色土 10YR6/6 12層土と同じ しまり・粘性あり
 - 20 にぶい黄褐色土 10YR7/4 ロームを主体とする均質な層 炭化物粒子 ($\phi 1\sim 5\text{mm}$) 微量 しまり・粘性あり
 - 21 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒子 ($\phi 1\sim 5\text{mm}$) 少量 しまり・粘性あり
 - 22 明黄褐色土 10YR6/6 ロームブロックを主体とし21層土が充填する しまり・粘性あり
 - 23 黒褐色土 10YR3/1 ローム ($\phi 1\sim 10\text{mm}$) 少量混じり含む しまり・粘性あり
 - 24 黒褐色土 10YR3/1 ローム ($\phi 1\sim 50\text{mm}$) 含む しまり・粘性あり
 - 25 黒褐色土 10YR3/1 ローム ($\phi 1\sim 30\text{mm}$) 多量 しまり・粘性あり
 - 26 明黄褐色土 10YR6/6 ロームブロック・黒褐色土充填 しまり・粘質あり
 - 27 黒褐色土 10YR3/1 ローム ($\phi 1\sim 10\text{mm}$) 少量 しまり・粘性あり
 - 28 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒子 ($\phi 1\sim 2\text{mm}$) 少量 しまり・粘性あり
 - 29 にぶい黄褐色土 10YR7/4 20層土中に黒褐色土ブロック混入 しまりあり 粘性やあり (※ローム=明黄褐色～にぶい黄褐色を指す)

第20図 第12号方形周溝底 (2)

第12号方周溝墓群 マウンド (C'-C''-D'-E'-F'-)

1a	にがい黄褐色土	10TR4/3	粘性のある褐色土主体	ローム粒子散在	シルト質土は含まない	しまりあり	粘性やややあり
1b	褐色土	7.5YR4/1	粘性のある褐色土主体	シルト質土(ロームと同質)少量	しまりあり	粘性やややあり	
2	にがい黄褐色土	10YR5/3	ややシルト質の褐色土主体	しまりあり	粘性やややあり		
3a	にがい黄褐色土	10YR7/3	シルト質土(ロームと同質)主体	粘性のあるローム土をほとんど含まない	しまりあり	粘性弱い	
3b	にがい黄褐色土	10YR7/4	シルト質土(ロームと同質)主体	黄褐色土粒子(φ1-2mm)・シルト質黄褐色土ブロック(φ20-30mm)少量	しまりあり	粘性強い	
3c	にがい黄褐色土	2.5YR3/3	しまりあり	粘性やややあり			
3d	黄褐色土	2.5YR3/2	シルト質黄褐色土主体	赤褐色土粒子(φ1-2mm)・褐色土粒子(φ10-20mm)少量	しまりあり	粘性やややあり	
3e	黄褐色土	2.5YR3/1	シルト質黄褐色土主体	酸化鉄(φ5-15mm)・褐色土粒子(φ10-40mm)少量	しまりあり	粘性強い	
4	黄褐色土	2.5YR4/1	シルト質土(ロームと同質)主体	褐色土粒子(φ1-2mm)少量	しまりあり	粘性強い	
5	にがい黄褐色土	10YR7/4	ローム土主体	シルト質土(ロームと同質)少量	しまり	粘性やややあり	
6	灰黄褐色土	10YR8/2	粘性のある褐色土主体	ローム土含む	シルト質土(褐色土)	しまり	粘性やややあり
7	にがい黄褐色土	10YR7/4	シルト質土	シルト質土を含まない	しまり	粘性やややあり	
8	にがい黄褐色土	10YR7/4	粘性のある褐色土主体	シルト質土を含まない	しまり	粘性あり	
8a	褐色土	10YR4/1	粘質の褐色土粒子主体	黄褐色土粒子(φ1-2mm)・シルト質土少量	しまり	粘性あり	
9a	褐色土	7.5YR4/1	ローム土主体	シルト質土を含まない	しまりあり	粘性やややあり	
9b	黄褐色土	10YR5/2	粘質の灰黄褐色土粒子主体	シルト質土・褐色土粒子(φ1-2mm)・黄褐色土ブロック(φ10-20mm)少量			
10	にがい黄褐色土	10YR6/3	ローム土主体	シルト質土を含まない	しまりあり	粘性あり	
11	にがい黄褐色土	10YR7/4	ローム土主体	シルト質土を含まない	しまりあり	粘性あり	
12a	黒褐色土	7.5YR3/1	粘性のある褐色土主体	シルト質土(明褐色)を一部ブロック状に混入			
12b	黒褐色土	10YR3/1	シルト質土(褐色土)主体	褐色土粒子(φ1-2mm)少量	しまりあり	粘性やややあり	
12c	灰黄褐色土	10YR5/2	灰黄褐色土主体(粘質)	黄褐色土粒子(φ1-2mm)少量	しまり	粘性あり	
13	にがい黄褐色土	10YR5/3	粘性のある褐色土主体	シルト質土を含まない	しまり	粘性あり	
14	明黄褐色土	10YR7/0	ローム土主体	シルト質土を含まない	しまりあり	粘性あり	
15a	灰黄褐色土	10YR4/2	褐色土層	土質は粘質的シルト質土(褐色)をブロック状に混入するが、主体は粘性のある褐色土層	しまり	粘性やややあり	
15b	黄褐色土	7.5YR3/1	粘質の褐色土主体	シルト質土(φ1-2mm)少量	しまりあり	粘性あり	
15c	黄褐色土	7.5YR3/1	粘質の褐色土主体	黄褐色土のシルト質土ブロック(φ5-30mm)少量	しまりあり	粘性やややあり	
15d	にがい黄褐色土	2.5YR3/1	シルト質土のにがい黄褐色土主体	色調にややムラがあるが、混入物はない	しまりやややあり	粘性弱い	
16a	黄褐色土	2.5YR3/1	シルト質土主体	粘質のローム土を含まない	しまりやややあり	粘性強い	
16b	褐色土	7.5YR4/1	シルト質土(褐色土)主体	灰褐色土ブロック(φ10-80mm)多量	黄褐色土粒子(φ10-20mm)少量	しまり	粘性あり
17	明黄褐色土	10YR7/0	ローム土主体	シルト質土(ロームと同質)散在	しまり	粘性あり	
18	褐色土	10YR4/1	灰褐色の粘性のある土主体	シルト質土を粒子状に含む	しまりやややあり	粘性あり	
19	明黄褐色土	10YR7/0	シルト質土(ロームと同質)主体	粘性のあるロームブロック(φ10-20mm)少量	しまりあり	粘性やややあり	
20	灰白色土	10YR8/1	シルト質土(灰白色)主体	灰褐色の粘性の強い粘土土質	しまりやややあり	粘性強い	
21	黒褐色土	10YR3/1	黒色に近い粘質土層	ロームブロック(φ10-30mm)少量	しまりやややあり	粘性強い	
22	黄褐色土	10YR5/4	シルト質土主体(ロームと同質)	粘性のあるローム土も細いブロック状を含む	しまり	粘性やややあり	
23	黄褐色土	2.5Y7/4	シルト質土主体(ロームと同質)	ロームブロック(φ10-30mm)少量	しまりあり	粘性強い	
24	黒褐色土	7.5YR3/1	黄褐色土のシルト質土(φ10-60mm)少量	黄褐色土粒子(φ1-2mm)少量	しまり	粘性あり	
25a	にがい黄褐色土	10YR5/3	褐色土のしまりのある土主体	黄褐色土ブロック(φ20-30mm)多量	しまりのある褐色土少量		
25b	にがい黄褐色土	10YR5/3	褐色土のしまりのある土主体	黄褐色土ブロック(φ20-30mm)多量	しまりのある褐色土少量		
26	黄褐色土	10YR4/1	褐色土のしまりのある土(この層全体が1つの褐色土ブロックとなっている)	しまりあり	粘性やややあり		
27	褐色土	10YR3/1	灰色のしまりのある土主体	黄褐色土ブロック(φ20-30mm)多量	しまりあり	粘性なし	
28	にがい黄褐色土	10YR5/4	黄褐色土のしまりある土(ローム)を主体	明褐色土ロームブロック(φ10mm)混在	しまりあり	粘性あり	(マウンドを構成している層下部と区別される)
29a	黒褐色土	10YR3/2	褐色土のしまりのある土主体	黄褐色土ロームブロック(φ20-80mm)多量	しまりあり	粘性なし(マウンドの裾部)	
29b	黒褐色土	10YR3/1	29aと同じ	黄褐色土ロームブロック(φ15mm-10mm)少量	しまりあり	粘性なし	
30	黒褐色土	10YR3/1	しまりあり	粘性やややあり			

基本土層

I	黒色土	10YR2/1	表土	しまりあり	粘性なし		
II	黒褐色土	7.5YR3/1	黒褐色の粘土層の上段が粘着しているため粘性はない	黄褐色土粒子(φ2mm)・炭化物少量	酸化鉄粒子(φ1mm)含む	しまりあり	粘性なし
III	灰黄褐色土	10YR4/2	褐色土の粘質土層の上段が粘着しているため粘性はない	酸化鉄粒子(φ1mm)含む	しまりあり	粘性なし	
IV	にがい黄褐色土	10YR3/3	粒子の細かい黄褐色の砂質土	浅黄A軽石(φ4mm以下)少量	しまりあり	粘性なし	(浅黄A軽石の2次堆積)
V	にがい黄褐色土	10YR5/3	黄褐色土のしまりのある土主体	浅黄A軽石(φ1mm以下)多量	しまりあり	粘性なし	
VI	黄褐色土	10YR5/2	黄褐色土の砂質土	シルト質に近い目の細かい砂粒	酸化鉄少量	しまりあり	粘性なし
VII	黄褐色土	10YR5/2	黄褐色土の砂質土	で6層の砂粒より目の細かいササツラした砂質のもの	理系褐色の酸化鉄粒子(φ5-10mm)含む	しまり強い	粘性なし
VIII	褐色土	10YR4/1	褐色土の砂質土主体	灰色砂粒子含む(6層と同じくらいの目の細かい砂)	輝黒褐色の酸化鉄粒子(φ2mm)多量	しまり	粘性なし
IX	褐色土	10YR4/1	褐色土のやや粘性のある土主体(シルトと粘土の中間のような土質)	白っぽい角状の砂粒(φ1mm以下)含む			
X	褐色土	10YR5/1	褐色土の粘土主体	灰色のやや砂粒の細かい少量	炭化物散在	全体的に鉄分がマール状に付着してやや暗灰色色を呈す	
XI	黒色土	10YR2/1	黒色粘質土の層	全体的に炭化物と考えられる	しまりやややあり	粘性あり	
XII	褐色土	10YR3/1	褐色土のしまりのある土(シルトに近い)主体	同化鉄散在	酸化鉄粒子(φ2-3mm)含む	土層割片含む	
XIII	褐色土	10YR3/1	褐色土のシルト質の粘性のある土主体	明褐色土砂粒少量	しまりあり	粘性やややあり	
XIV	黄褐色土	10YR4/1	酸化鉄多量	炭化物含む	しまりあり		
XV	白色土	2.5Y2/1	酸化鉄多量	炭土粒子・粘土ブロック少量	炭化物含む		
XVI	黒褐色土	8.5Y4/1	黄褐色土の粘性のある土主体	褐色土ブロック(φ50mm)少量	酸化鉄粒子(φ1mm)少量	しまりなし	粘性あり
XVII	黒色土	K2/0	黒色粘質土	酸化鉄粒子(φ8mm)混在	しまりあり	粘性やややあり(古墳時代中期頃の地表層)	
XVIII	黄褐色土	5B5/1	褐色土の粘土主体	黄褐色土シルト粒子(φ50mm-10mm)多量	しまり	粘性やややあり	
XIX	黄褐色土	5B4/1	黄褐色土シルト質の土主体	褐色土シルト質土	褐色土シルト質土	しまり	粘性なし
XX	にがい黄褐色土	10YR7/2	黄褐色土シルト質の層	全体的に酸化鉄が分布する	粘土質		
XXI	褐色土	10YR4/1	黄褐色土シルト質の層	XX層より細い	粘土質		

第21図 第12号方周溝墓(3)

方台部の規模は、南北14.89m、東西13.23mであった。北東と南西のコーナー部がやや外に膨れており、平面形態は不整形をした。

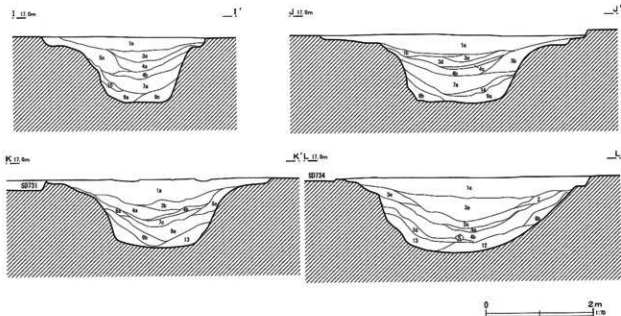
方台部上には、中央部に高さ76cmのマウンドが検出された。周溝の立ち上がり部分まではマウンドは

拡がらずに、方台部の中央部分にのみ残存していた。

マウンドは外側から中心部に向けて傾斜をつけて

盛り土をされていた。盛り土は、大きくは地山の黄

褐色シルト質土を主体にする層と黒褐色のシルト質土を主体に黄褐色のブロックを含む層に分けられる。



第12号方形周溝墓 周溝

- | | | | | | |
|----|---------|---------|---|-------------------|-------------------|
| 1a | 褐色土 | 10YR4/1 | 黄灰色粘土粒子 (φ1~2mm)・炭土・炭化物少量 | しまりあり | 粘性ややあり (平安包含層) |
| 1b | 褐色土 | 10YR4/1 | 1a層に暗褐色粘土微量 酸化鉄少量 | しまりあり | 粘性なし (平安包含層) |
| 1c | 褐色土 | 10YR5/1 | 酸化鉄多量 褐色土ブロック (φ1~10mm) 含む | しまりあり | 粘性なし |
| 2 | 褐色土 | 10YR4/1 | 淡緑灰色粘土ブロック (φ3~5mm) 多量 | | |
| 2a | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 淡緑灰色粘土ブロック (φ10~20mm) 含む | しまりあり | 粘性あり |
| 3b | 黒褐色土 | 10Y5/1 | 淡緑灰色土粒子 (φ0.5~1mm) 多量 | | |
| 3c | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 3a層に暗褐色粘土多量 灰色シルト少量 | しまり・粘性あり | |
| 3d | 褐色土 | 10YR4/1 | 黄褐色土ブロック (φ10~20mm) 含む 淡緑灰粒子 (φ1~2mm) 少量 | 部分的に黄褐色土ロームブロック含む | しまり・粘性あり |
| 3e | 褐色土 | 10YR4/1 | 3a層に褐色土ブロック (φ10~20mm)・褐色シルト・灰色粘土含む | しまり・粘性あり | |
| 4a | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 淡緑灰色粘土ブロック (φ10~20mm)・淡緑灰色粘土粒子 (φ0.5~1mm) 従 | 炭化物多量 | しまり・粘性あり |
| 4b | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 淡緑灰色粘土粒子 (φ0.5~1mm) 含む | 部分的に炭化物多量 | しまり・粘性あり |
| 4c | いり・黄褐色土 | 10YR5/3 | 黄褐色土ブロック (φ10mm) 含む | しまりあり | 粘性ややあり (マウンド陥落土) |
| 5a | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 9a層に酸化鉄少量 | しまり・粘性あり | |
| 5b | 灰色土 | 10Y5/1 | 淡緑灰色粘土粒子 (φ0.5~1mm) 多量 | しまり・粘性あり | |
| 5c | 灰色土 | 10Y5/1 | 暗灰色粘土・褐色シルト多量 黄褐色土含む | しまり・粘性あり | |
| 6a | 灰色土 | 10Y6/1 | 淡緑灰色粘土粒子 (φ0.5~1mm) 従 | しまり・粘性あり | |
| 6b | 灰色土 | 10Y5/1 | 淡緑灰色土粒子 (φ0.5~1mm) 多量 | しまり・粘性あり | |
| 7a | 褐色土 | 10YR4/1 | 淡緑灰色粘土粒子 (φ0.5~1mm) 少量 | しまり・粘性あり | |
| 7b | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 淡緑灰色土粒子 (φ0.2~0.5mm)・灰色シルト少量 | 酸化鉄含む | しまりややあり 粘性あり |
| 7c | 褐色土 | 10YR4/1 | 淡緑灰色土粒子 (φ1mm) 多量 | しまり・粘性あり | |
| 7d | 褐色土 | 10YR4/1 | 淡緑灰色土粒子 (φ1~3mm)・ブロック (φ10~20mm)・炭化物含む | しまりややあり | 粘性あり |
| 8a | 黄緑灰色土 | 5G7/1 | 粘土質 7a層をブロック状に含む | しまり・粘性あり | (壁陥落土) |
| 8b | 褐色土 | 5G5/1 | 緑灰色シルト土層 酸化鉄多量 | しまり・粘性ややあり | |
| 9a | 灰色土 | 5Y4/1 | 緑灰色粘土粒子 (φ5~8mm) 多量 | 部分的に炭化物含む | しまり・粘性あり |
| 9b | 灰色土 | 5Y4/1 | 9a層中に黄褐色土ブロック (φ5mm) 多量 | しまりなし | 粘性あり |
| 9c | 灰色土 | 5Y4/1 | 9a層中に黄褐色シルト・淡緑灰色粒子 (φ3~5mm) 少量 | しまりなし | 粘性あり |
| 10 | 黄褐色土 | 5Y7/3 | 黄褐色粘土と暗褐色土の混合層 | | (壁陥落土) |
| 11 | 灰黄褐色土 | 10YR5/2 | 褐色土ロームブロック (φ10mm) 含む | 褐色土が上層に少量散る | しまり・粘性ややあり (壁陥落土) |
| 12 | 緑灰色土 | 5G5/1 | 酸化鉄多量 黄褐色土ロームブロック (φ10mm) 少量 | しまりややあり | 粘性あり (壁陥落土) |
| 13 | 褐色土 | 5G5/1 | 灰色粘土少量 | しまり・粘性あり | |
| 14 | 暗青灰色土 | 5B3/1 | 淡緑灰色土粒子 (φ1~3mm) 多量 | しまりややあり | 粘性あり |

第23図 第12号方形周溝墓 (5)

マウンド上の西寄りからは第739号土坑が検出された。土坑からの出土遺物がなく、時期を特定できなかったが、マウンドの中心部分からずれていることもあり、マウンドを壊して構築された時代の新しい遺構であると判断した。マウンドからは本遺構に伴う埋葬施設は確認できなかった。後世の削平等により消失してしまった可能性がある。マウンド内からは刀子片が1点出土した。

遺物は、周溝の覆土中～下層にかけては古墳時代前期、上～中層にかけては古墳時代中期から平安時

代までの遺物が出土している。幅広の深い周溝が全周しているにも関わらず、遺物出土量は全体的に少ないことが特徴としてあげられる。

南東コーナー部寄りと南溝中央部の底面から完形の土師器塔が1点ずつ出土した。それぞれの出土状況をみると、方台部から転落したとは考えにくく、方形周溝構築造時に周溝底面に土器を供献したのと考えられる。

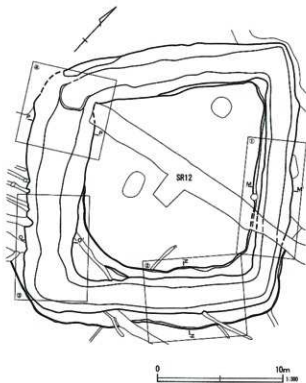
南西コーナー付近の覆土中層からは、ほぼ完形の古墳時代中～後期の土師器の塊3点、鉢1点が出土

した。これらの土器は周溝内に置かれたような出土状況を示していたことから、本周溝墓がその当時においても墓として認識され続け、儀礼的な行為を行った可能性も考えられる。ただ、約一世紀を隔てた時期にまで墓前での祭祀が行われたとは考えにくく、類が増えるのを待って再検討をする必要がある。また、古墳時代後期の遺物が覆土中層から出土していることにより、周溝は中位までしか埋没していなかったことがわかる。最上層には平安時代の包含層(1a・b層)が確認できたことから、周溝が完全に埋没した時期は9～10世紀となる。

出土遺物は、第25・28・29図に示した。

第25図1は、マウンド内から出土した鉄製品の刀子柄部片である。遺物の出土状況からは、本周溝墓に伴うものか、後世の遺物が混入したかの判断がつかなかった。本周溝墓に伴うとすれば、埋葬施設は検出されなかったが、副葬品である可能性が高い。

第28図1～12は、主に周溝の下層から出土した土器で、本周溝墓築造時の遺物である。1は、北西コーナー付近から出土した二重口縁の壺である。胴部下半の一部を欠損し、底部は器面の剥落が著しい。2・6は、東溝中央部の第683号土坑と重複する地点から出土した壺である。2は胴部下半を大きく欠損する。頸部には突帯が巡る。6は大型壺の底部片で、器壁が厚い。焼成前に穿孔された直径1.3cmの小孔が認められる。摩滅が著しく、調整は不明である。3～5は、壺の底部片である。7は、南西コーナー付近から出土した小型壺で、口縁部は横方向のナデが施される。8は、東溝中央部の覆土中層から出土したミニチュアの台付甕である。胴部内面は横方向のヘラミガキで、胴部内外面に煤が付着する。9は、南西コーナーから出土した台付甕の脚部台である。胴部内面に煤が付着する。10は高坏の脚部片で、円孔は1箇所のみ残存している。11・12は、ほぼ完形の埴である。11は南東コーナー寄り、12は南溝中央部の底面から出土した。11は口縁部が長く、全面に赤彩される。12は口縁部が短く開き、頸部に稜を



第24図 第12号方形周溝墓区劃図

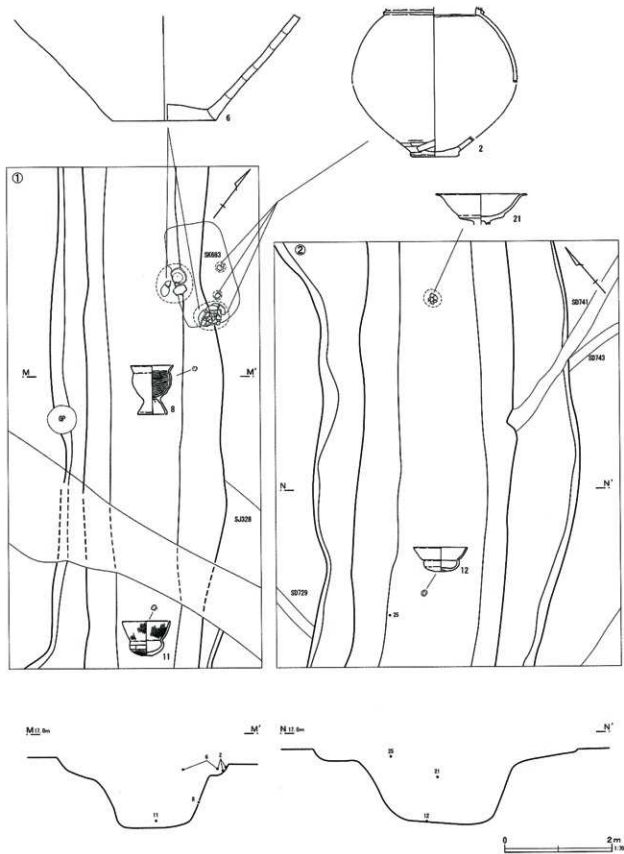


第25図 第12号方形周溝墓マウンド出土遺物

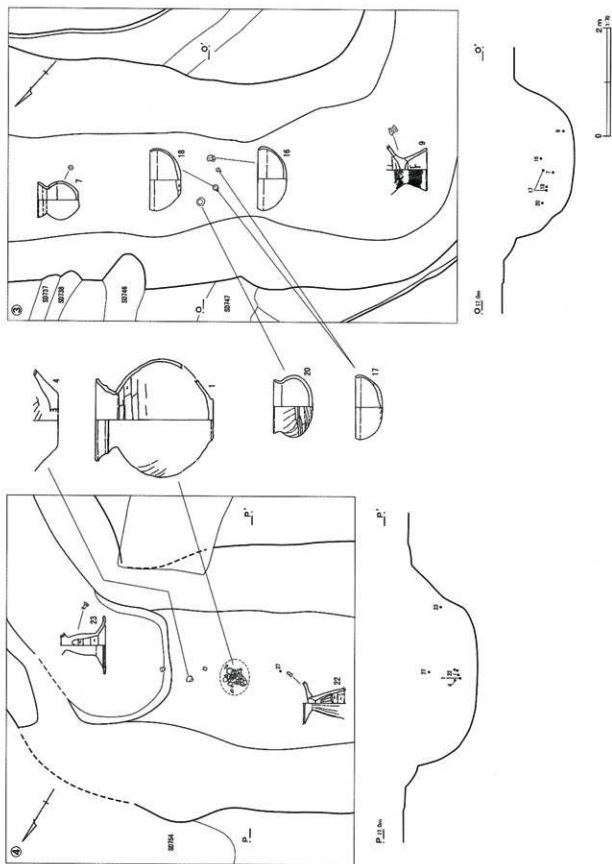
もつ。

第29図13～27は、周溝の埋没過程において廃棄や流れ込んだもので、本周溝墓には伴わない遺物である。覆土上～中層にかけて出土している。13は、須恵器坏壺である。14は、灰軸陶器の長頸瓶である。15は須恵器甕の口縁部片で、湖西産と考えられる。16～18・20は、南西コーナー付近の覆土中層から出土した土師器埴・鉢である。4点ともほぼ完形で、16～18は全面に赤彩が施される。19は土師器の模倣坏で、口縁部外面から内面にかけて赤彩される。21～23は、土師器の高坏である。22の脚部片は、坏部内面と外面に赤彩される。25は滑石製の白玉、26・27は石製模造品の剣形品である。

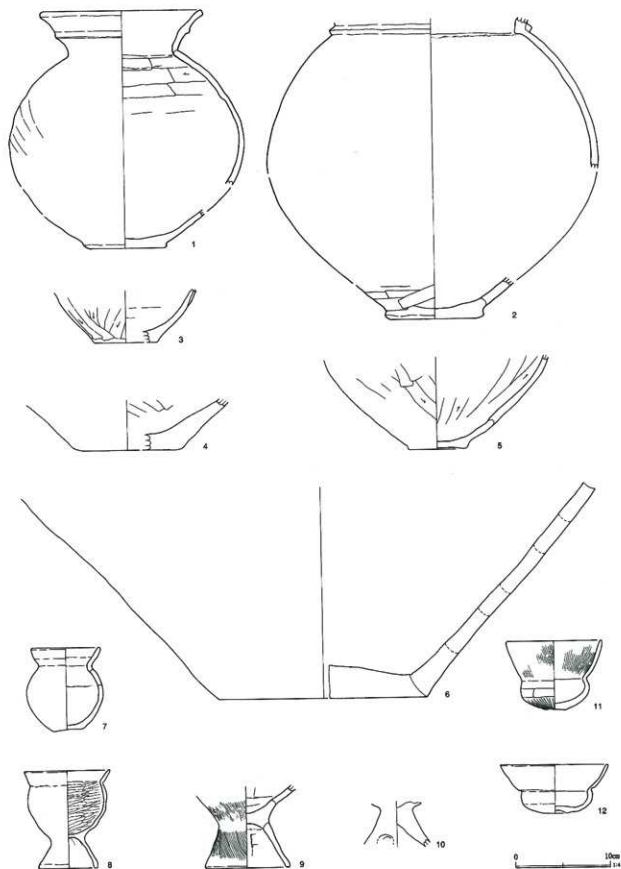
第13号方形周溝墓(下田町遺跡Ⅱに掲載)



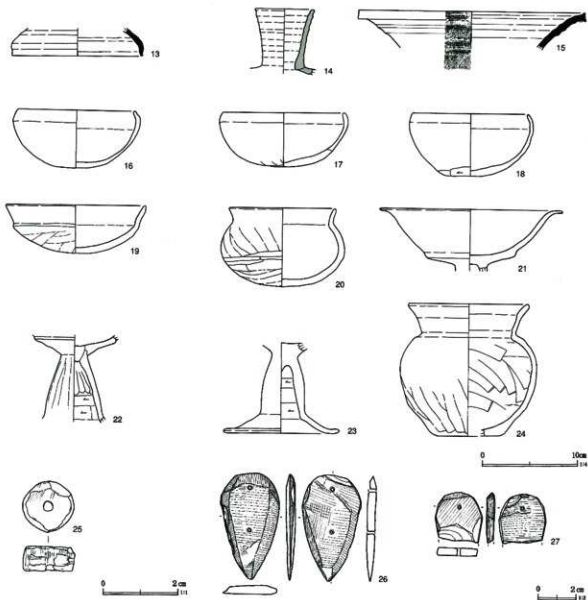
第26图 第12号方形周溝墓遺物出土狀況 (1)



第27图 第12号方形周清墓遣物出土状况(2)



第28图 第12号方形周满墓出土遗物 (1)



第29図 第12号方形周溝墓出土遺物(2)

第14号方形周溝墓(第30図)

O-31・32グリッドにかけて検出された。東側と北側の一部は調査区域外に延びていたため、全体を調査することができなかった。また、調査前に掘削した排水溝により周溝の一部が壊されている。第749・750号溝跡、第691号土坑と重複し、新旧関係は本遺構がそれらの遺構より古かった。調査時の旧番号は、S D730である。

検出された範囲での規模は、南北9.15m、東西が6.00mであった。全体を検出していないため平面形態は不明であるが、南北にやや長い方形をしていたもの

のと思われる。長軸方向は、 $N-8^{\circ}-W$ であった。

周溝の規模は、幅0.83~2.35m、深さが0.41~0.57mであった。周溝の幅は、南東コーナー付近が一番狭く、南西コーナー部が広がっていた。幅広となった南西コーナー部には、周囲よりも一段深い土坑状の掘り込みが検出された。遺構確認面からの深さは0.91mであった。土層断面の観察からは、周溝掘削時に掘り込まれたものであることがわかる。西溝の中央にも遺構確認面からの深さが0.61mとやや浅い土坑状の掘り込みが検出されている。周溝壁面の立ち上がりは、内外とも緩やかに立ち上がっており、底面

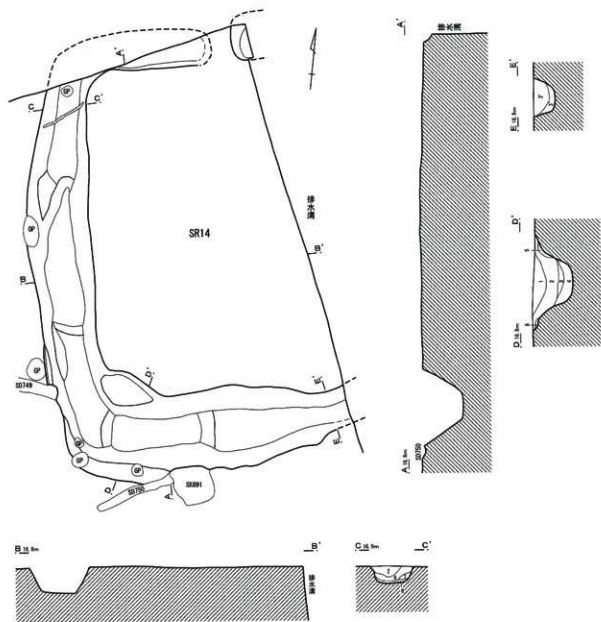
は平坦であった。

北溝の中央部分には、幅0.44mの狭い陸橋部が認められた。周溝の両端は、他の周溝と比べ深さがやや浅くなっていた。

方台部は、南北6.80m、東西4.90m以上であった。

方台部上には、マウンドや埋葬施設を確認することはできなかった。

出土遺物は、全体的に少量で、図示できるものがなかった。



第14号方形周溝墓

- | | | | | |
|----|---------------------|-----------|----------------------------|------------|
| 1 | 黒褐色土 | 10TR2/2 | 灰黄土(堆山土)粒子(φ1~2mm)少量 | しまり・粘性あり |
| 2 | 黒褐色土 | 10TR3/1 | 灰黄土粒子(φ1~5mm)均等に含む | しまり・粘性あり |
| 2' | 2層中にヤンゴン鉄分がやや多く含まれる | | | |
| 3 | 黒色土 | 10TR1.7/1 | 灰黄土ブロック含む | しまりあり 粘性強い |
| 3' | 灰黄土の混入が3層に比べ多い | | | |
| 4 | 灰黄色土 | 2.5IV6/2 | 灰黄土がブロック状に堆積し、すきまに3層土が充填する | しまり弱い 粘性強い |
| 5 | 灰黄土 | 2.5IV6/2 | 灰黄土がブロック状に堆積し、すきまに2層土が充填する | しまりあり 粘性強い |
| 6 | 黒褐色土 | 10TR3/1 | 灰黄土粒子(φ1~2mm)散在 | しまり・粘性あり |
| 7 | 黒灰色土 | 10TR4/1 | 全体的に灰黄土粒子少量 | しまり・粘性あり |
| 8 | 灰黄色土 | 2.5IV6/2 | 灰黄土を主体とし7層土を混入 | しまりあり 粘性強い |

第30図 第14号方形周溝墓

第15号方形周溝墓 (第32図)

L・M-33・34グリッドにかけて検出された。第334・345・350・353号住居跡、第748・762号溝跡と重複していた。新旧関係は、第748号溝跡よりも新しく、第334・345・350・353号住居跡、第762号溝跡よりも新しかった。方台部の西半部を古墳時代後期の大溝である第762号溝跡が走行しており、遺構の残存があまり良くなかった。北西約5mには、本周溝墓とほぼ同時期の第343号住居跡が位置していた。第343号住居跡は調査区の北半で検出された唯一の古墳時代前期の住居跡である。本周溝墓の調査時の旧番号は、北溝がS D 756、東溝がS D 757、西溝がS D 758、南溝がS D 759で、各周溝に個別の遺構番号を付し、調査を行った。

規模は、南北8.85m、東西8.50mであった。平面形態は正方形で、四隅が切れるタイプの周溝墓であった。長軸方向は、N-49°-Wであった。すぐ東側には、本周溝墓と同様の四隅が切れる大型の第16号方形周溝墓が位置し、ほぼ長軸方向も一致していたことから、2基で群を構成していたものと考えられる。2基の周溝墓同士の重複関係は認められなかった。

周溝の規模は、北溝が長さ6.15m、幅0.72~0.87m、深さが0.21~0.47mであった。周溝の東端は、噴砂が走っていたため、壁の立ち上がり部分がやや歪んだ形状をしていた。また、西側には溝状の浅い落ち込みが認められた。

東溝は、長さ5.95m、幅0.60~0.75m、深さが0.14~0.26mであった。住居跡床面下から検出されたため、周溝の南端は深さが浅くなっている。

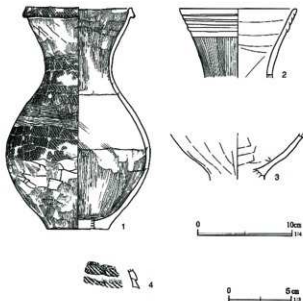
西溝は、長さ6.07m、幅0.76~0.90m、深さが0.25~0.40mであった。

南溝は、第762号溝跡に壊されており、全体を検出することはできなかった。検出した長さ3.40m、幅0.63~0.88m、深さが0.17~0.44mで、東端は傾斜が緩く立ち上がりが明瞭ではなかった。遺物は、覆土最上層から壺が横倒しになった状態で出土した。

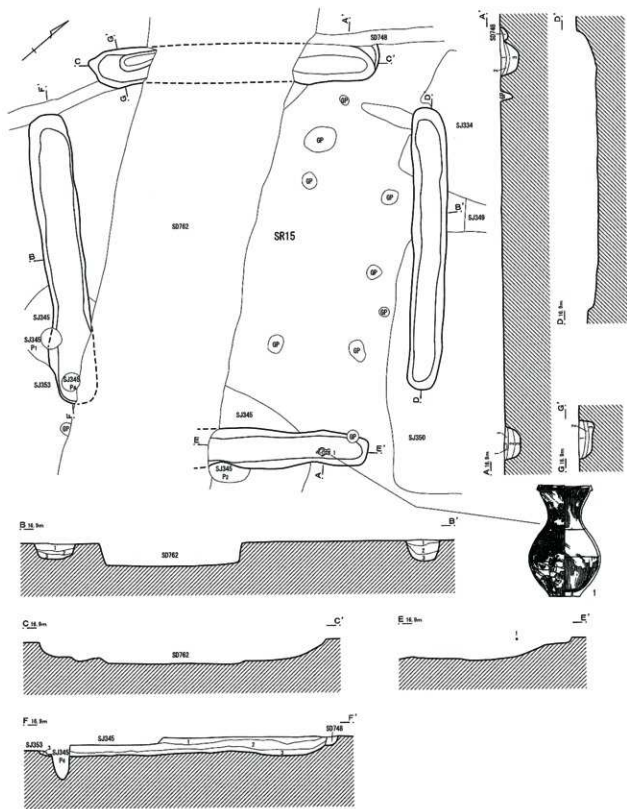
各周溝ともに、壁面の立ち上がりは、内外とも緩やかで、底面は平坦であった。覆土は、最下層に地山の黄褐色土ブロックを多量に含む黒褐色土が堆積しており、全て共通するものであった。方台部側からの堆積が顕著に認められず、周溝の深度も浅いことから、盛り土は低墳丘であったか、ほとんどなかったものと考えられる。

方台部は、南北7.30m、東西6.95mで、南北にやや長い正方形であった。方台部上には、マウンドや埋葬施設を確認することはできなかった。

遺物は、第31図に示した。1は、折り返しの口縁部が外に開く壺である。口縁端部には小口状工具による細かい刻み目が施される。口縁部、頸部、胴部にそれぞれ単節R L縄文が施文される。無文部には赤彩されていた可能性がある。2は、第762号溝跡から出土しているが、本来は本周溝墓に伴うものである。吉ヶ谷式の壺の口縁部で、外面全体に赤彩が施される。口縁部外面には4段の明瞭な輪積み痕が残る。頸部外面は縦方向のヘラミガキ、内面はヘラナデ調整である。3は、東溝から出土した台付甕の胴部下半で、調整はヘラナデである。4は、東溝から出土した吉ヶ谷式の甕胴部片である。外面に明瞭な輪積み痕が認められ、単節R L縄文が施文される。



第31図 第15号方形周溝墓出土遺物



第15号方形周溝墓

- 1 暗褐色土 10YR3/3 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 少量
 2 黄褐色土 10YR2/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm) 多量 黄褐色土ブロック (φ3~5mm)・炭化物粒子 (φ1~2mm) 少量
 3 黒褐色土 2.5Y3/1 黄褐色土粒子 (φ1~2mm)・黄褐色土ブロック (φ3~10mm) 多量 炭化物粒子 (φ2~3mm) 少量

0 2m

第32図 第15号方形周溝墓